

日本鐵鋼協會第27回講演大會 並に第27回通常總會記事

目	次
I. 實施概要	471
II. 講演大會	471
III. 通常總會	475
1. 會務及び會計報告	475
2. 表彰者推薦理由書	491
IV. 春季大會晚餐會記事	493
V. 製鐵製鋼用參考品展覽會記事	498

I. 實 施 概 要

日 時 自昭和 17 年 4 月 4 日 (土) 至昭和 17 年 4 月 7 日

- 會 場
1. 第 27 回講演大會 神田區一ツ橋 2 丁目 9 番地
 2. 第 27 回通常總會 帝國教育會館
 3. 晚 餐 會 神田區一ツ橋帝國學士會館
 4. 製鐵製鋼用參考品展覽會
芝區海岸通 1 丁目東京府立工業獎勵館

出席者

大會出席申込者	1,332 名
實際出席者	954 名
第 1 日 (講演) 出席者	788 名
第 2 日 (講演) 出席者	765 名
第 3 日 (見學) 出席者	618 名
A 班 足立製鋼所	71 名
C 班 中央度量衡檢定所	17 名
D 班 工業電氣計器	15 名
E 班 荏原製作所	48 名
F 班 富士製鋼所	95 名
K 班 川崎窯業	32 名
N 班 日産自動車	77 名
R 班 鐵道大臣官房研究所	62 名
S 班 芝浦共同工業	68 名
T 班 日本鑄鋼	63 名

配布印刷物

- (1) 昭和 16 年度會務會計報告書
- (2) 出席者名簿
- (3) 服部賞, 香村賞, 俵賞, 渡邊賞各受領者推薦理由書
- (4) 第 27 回講演大會講演大要

第 27 回 講 演 大 會

第 1 日 4 月 4 日 (土) 午前 8 時 30 分開會

定刻の振鈴にて出席者總員に對し渡邊會長より一場の挨拶あり、開會を宣し直に第 1 會場, 第 2 會場に分れ左記諸君の司會の下に夫々豫定の通り講演プログラムが進められた。唯第 48 番原田源三郎

君の「タングステン」鑽石を用ひて直接タングステン鋼を熔製せる工業實驗報告が都合上取止めとなり、38 番大野田剛君, 44 番鈴木芳郎君が事故の爲缺講された外極めて順調に進行した。午後 5 時 55 分閉會。本日司會の勞を執られし方々は次の通り。

	第 1 會場	第 2 會場
自 8.40 至 9.50	渡邊 三郎君	鹽澤 正一君
自 10.05 至 11.15	石田 四郎君	井村 竹市君
自 1.00 至 2.05	俵 國 一君	石原 善雄君
自 2.20 至 3.30	河 村 驍君	黒田 泰造君
自 3.45 至 4.55	川上 義弘君	齋藤 大吉君
自 5.10 至 5.55	網谷 俊平君	松下 長久君

晚 餐 會

午後 6 時 15 分開會

出席者 實際 178 名 申込 197 名

内譯 表彰者	12 名	見學工場主	9 名
講演者	55 名	實行委員	13 名
其他	1 名	會 員	88 名

會 場 帝 國 學 士 會 館

大東亞戰爭始つてより滿 4 ヶ月御變威の下共榮圏は已に確定せられ未だ一度の敵機空襲すら見ることなく、斯くも盛大なる會合を見ることが得しは誠に欣賀に耐へざるところである。デザートは例に依り金屬學會長本多光太郎君, 受賞者を代表して川上義弘君, 見學工場主を代表して久芳道雄君, それから尾藤加勢士君, 河村驍君, 齋藤大吉君, 並に新會長松下長久君の和かな裡にも多大の教訓に満ちた卓上談話あり, 早くも 9 時を過ぐ。會長立つて二年間の任期中多方面より寄せられたる御好意を感謝し且一同の健康を祝して閉會を告ぐ。

第 2 日 4 月 5 日 (日) 講演會第 2 日 午前 8 時 40 分開會

本年は第 1 日も第 2 日も又午前中も午後中也仕舞まで出席の減少を見なかつたことは例年にない事柄で、一つは機械學會, 金屬學會も略同一時期に講演會があつた爲ならむとの説もあつた, 兎に角近頃のない緊張を見たことは時局の影響も有つたらしい。プログラム全部は最も順調に終了することが出来た。

講演全部終了後會員全部の第 1 會場集合を俟つて渡邊會長は次の如く閉會の辭を述べられた。

閉會之辭 會長 渡邊 三郎君

昨日早朝からの講演大會も皆様のお蔭で盛會裡に終を告ぐることを得られ慶賀に耐へません。講演研究の誠に立派なのが澤山でしたに拘らず、時間が最初から切詰められて居て誠に申譯ありませんでしたが、斯く成功裡に終ることを得ましたのは實に會員各位の御熱心の賜に外ならないと衷心感謝して居る次第で御座います。又お世話なされた實行委員諸君に篤く御禮申上ぐる次第で御座います。

序でに私も今日を以て無事大役をお譲り申した譯でありまして、色々賜りました御援助を厚くお禮を申し上げ、同時に會員各位の御自愛を祈つて已みません。次回の會長は松下長久君に決まりましたが、ドーゾ私同様一層の御愛顧をお願ひ申上げます。これを以て閉會といたします。(午後5時30分)

尙本日司會の勞を執られし方は次の通り。

	第1會場	第2會場
自 8.40 至 9.50	志村清次郎君	吉川 晴十君
自 10.05 至 11.15	尾藤加勢士君	岩瀬 慶三君
自 11.30 至 12.15	藤井 寛君	三島 徳七君
自 1.00 至 2.10	的場 幸雄君	金子 恭輔君
自 2.25 至 3.35	澤村 宏君	水谷 叔彦君
自 3.50 至 4.35	村上武次郎君	吉川 晴十君
自 4.40 至 5.20	渡邊 三郎君	

講演プログラム

第1日 4月4日(土) 講演第1日 第1會場 午前8時30分開會

閉會之辭 日本鐵鋼協會會長 渡邊 三郎君
講演午前之部

第1會場 ○印は講演者

- 1) 鋼の焼入性試験方法に就て
日立製作所安來工場 工學士○芥川 武君
原田健重郎君
- 2) 強靱クロムモリブデン鋼の焼割防止(幻燈要)
神戸製鋼所 工學士 梅澤光三郎君
○望月 脩次君
- 3) ニッケルクロム鋼代用鋼としてのクロム・ワナヂウム鋼に関する研究(第1報)
日本砂鐵鋼業株式会社高砂工場 工學士○上野建二郎君
佐藤 進君

10分間休憩

- 4) ニッケルを含まない航空機用代用鋼の一種に就て
川崎重工業株式会社製鋼工場
技師 理學士 門川 勳君
工學士○塚本 成之君
- 5) 真空熔融法による鐵鋼中の酸素定量法の改良
日本特殊鋼株式会社技師 工學士 矢島 忠和君
- 6) 代用鋼の吟味
三菱重工業株式会社社長崎製鋼所
技師 工學士 富川 直正君

第2會場

- 36) 平爐用珪石煉瓦の試作に就て
日本製鐵株式会社八幡製鐵所製銑部
第二窯業課 工學士 河内 通君

- 37) 珪酸苦土系耐火物に就て
黒崎窯業株式会社 技師 下井 勇君

- 38) 平爐に於ける珪石煉瓦の損傷原因と白珪石製煉瓦の製造法に関する研究に就て

黒崎窯業株式会社 技師 大野田 剛君
10分間休憩

- 39) 茂山粉鐵鑛石の焼結實例に就て
日本製鐵株式会社廣畑製鐵所 技師 筑紫 進一君

- 40) 熔鑛爐の裝入原料としての焼結鑛石に就て
日本製鐵株式会社八幡製鐵所製銑部
技師 高山 松平君

- 41) 熔鑛爐操業に於ける二三の考察
日本製鐵株式会社八幡製鐵所製銑部
工學士 小 菅 高君

日本鐵鋼協會第27回通常總會

日 時 昭和17年4月4日(土) 午前11時20分開會
午後0時30分閉會

會 場 東京市神田區一ツ橋2丁目9番地 帝國教育會館
第1會場

閉會之辭 社團法人 日本鐵鋼協會會長
工學博士 渡邊 三郎君

I 議 事

- イ 昭和16年度會務報告
- ロ 昭和16年度收支決算報告
- ハ 昭和17年度收支豫算報告
- ニ 任期満了役員(理事, 評議員)改選(投票開票)
- ホ 其他

II 表彰式

- イ 服部賞贈呈式
- ロ 香村賞贈呈式
- ハ 俵賞贈呈式
- ニ 渡邊賞贈呈式

總會閉會之辭 會長 渡邊 三郎君

講演午後之部

第1會場

- 7) 鋼の分離抗力と焼戻脆性
三菱重工業株式会社社長崎製鋼所
理學士 河合 正吉君
○越智 通夫君

- 8) 代用鋼の二三の實驗に就て
日立製作所日立工場製鋼部製鋼課
工學士○守永 孫江君
檜垣 達君
佐々木 涉君

- 9) シルクロム鋼に就て(幻燈要)
大同製鋼株式会社 工學博士 錦織 清治君
工學士○淺田 千秋君

10分間休憩

- 10) シルクロム鋼に関する研究(第2報)
Fe-C-Cr-Si系切斷狀態圖に及ぼす各種元素の
影響(幻燈手札)

- 持殊製鋼株式會社研究部 工學士○山中 直道君
佐藤恭次郎君
- 11) 高溫に於ける鋼の變形抵抗に就て(幻燈手札)
住友金屬株式會社鋼管製造所研究部
理學士 池島 俊雄君
- 12) 高級鋼材の検査規格立案に關する一考察
神戸製鋼所技師 工學士 梅澤光三郎君
10 分 間 休 憩
- 13) 特殊鋼の衝擊値に關する研究
日本製鋼所室蘭技術研究所 工學士 萩原 巖君
- 14) 廣幅熱間帶鋼壓延に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部
技師 田地川健一君
- 15) 連續壓延作業に於ける走間剪斷機に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所工務部
工學士 深田 健三君
10 分 間 休 憩
- 16) 昭和製鋼所製鋼材の機械的性質に及ぼす化學成分
の影響に就て
株式會社昭和製鋼所研究所
工學士 藤田守太郎君
工學士○坂井 幸雄君
- 17) オーステンパーリング中の異相變化に就て
東北帝國大學教授 理學博士○岩瀬 慶三君
助教授 理學士 竹内 榮君
第 2 會 場
- 42) 酸化劑としてのマンガン鑽石の特異性に就て
横須賀海軍工廠造機部
海軍造機大佐 工學博士 石川 薫君
廣海軍工廠造機部 海軍技師
理學士○山本 利道君
- 43) 熔鑄爐能率の一考察
日本製鐵株式會社八幡製鐵所製鉄部
第二鉄鐵課 末 松 一君
- 44) 含ニッケル鐵鑄に依る特殊鋼に就て
大阪帝國大學助教授 工學士 鈴木 芳郎君
10 分 間 休 憩
- 45) ユークスの強度に及ぼす洗炭度の影響に就て
日本製鐵株式會社廣畑製鐵所
技師 勝屋 亶君
- 46) ボーキサイト耐火煉瓦とその用途に就て
九州耐火煉瓦株式會社 取締役社長 河合 幸三君
- 17) ムライト系耐火物の生質と其天然資源に就て
品川白煉瓦株式會社岡山工場
専務取締役 技師長 藤田新三郎君
10 分 間 休 憩
- 48) タングステン鑽石を用ひて直接タングステン鋼を
熔製せる工業實驗報告
本溪湖煤鐵公司 工學士 原田源三郎君
- 49) 粒鐵の脫硫試験
株式會社昭和製鋼所研究所
工學士 垣内富士雄君

- 工學士○山本 純三君
- 50) 含ニッケル鐵鑄中のコバルト採取に就て
大阪帝國大學教授 工學博士 松川 達夫君
10 分 間 休 憩
- 51) 回轉爐内に於ける鐵鑄石還元機構に就て
東北帝國大學選鑄製鐵研究所
工學士 徳山 忠臣君
- 52) キュボラ操業に關し風量ユークス比等の影響に就て
横須賀海軍工廠造機部
海軍造機大佐 工學博士 石川 薫君
第 1 日 講演會 終了
晩餐會 午後 6 時 15 分開會
會 場 東京市神田區一ツ橋 帝國學士會館
會 費 金 5 圓
第 2 日 4 月 5 日(日) 講演第 2 日(會場前日同斷)
講演 午前之部
第 1 會 場
- 18) 鑄鐵鑄物に於ける氣泡及び引け巢發生の理論及び其
の實證(1)
理化學研究所 理學士 眞 殿 統君
- 19) 鑄鐵に及ぼす硫黃の影響(幻燈手札)
三菱重工業株式會社横濱船渠材料試驗場
工學博士 黒田 正夫君
矢島 善夫君
○森川 泰汎君
- 20) 鑄鋼の黒皮が耐蝕性に及ぼす影響(幻燈手形)
三菱重工業株式會社横濱船渠材料試驗場
工學博士 黒田 正夫君
藤盛 雄吉君
○大西 正次君
10 分 間 休 憩
- 21) ゲージ用不収縮鋼の硬度耐磨減性及び時効性に及
ぼす熱處理の影響
不二越研究所 工學博士 石田 求君
工學士○川口寅之助君
- 22) 鋼の階段焼入に關する研究(第一報)(幻燈要)
住友金屬工業株式會社製鋼所
理學士 菅野 猛君
- 23) 炭素鋼の焼入質量效果に就て(幻燈要)
大同製鋼株式會社 理學博士 清水 定吉君
○竹本 專一君
10 分 間 休 憩
- 24) 炭素鋼のオーステナイト化速度に及ぼす加熱溫度
及び素材組織の影響に就て(幻燈手札)
藤永田造船所 技師 工學士 美馬源次郎君
- 25) 航空機用特殊鋼の疲勞限界に及ぼす時効の影響に
關する研究
日本製鐵株式會社研究所理事
工學士 田川淺次郎君
晝 食
講演 午後之部
- 26) 肌焼クロム鋼の緩和滲炭に就て(幻燈手札)

- 神戸製鋼所神戸工場研究部
工學士 上田 滿正君
- 27) 過熱燃焼鋼に関する研究 (幻燈手札)
三菱重工業株式会社名古屋發動機製作所
技師 工學士 關口 次郎君
- 28) ピアノ線の製造法に関する研究
大阪陸軍造兵廠陸軍兵技中尉
工學士 虎岩 頼夫君

10 分間休憩

- 29) 鋼の機械的試験に関する二三の考察
三菱重工業株式会社長崎製鋼所
理學士○河合 正吉君
越智 通夫君
- 30) ピアノ線のX線による研究大要
大阪陸軍造兵廠陸軍兵技中尉
理學士 永田 三郎君
- 31) 炭素含有量を異にする鋼線の特性 (第一報)
東京製鋼株式会社川崎工場
技師○降旗 晋吉君
新保 越夫君

10 分間休憩

- 32) 中空鋼の製造研究
大同製鋼株式会社 工學博士 錦織 清治君
○柳 沼 隆君
太田 保雄君
浅野 義一君
- 33) 硫化水素と水蒸気の混合ガスに対する低クロム合金鋼の耐蝕性
東北帝國大學工學部金屬工學科
工學士 矢島悦次郎君
- 34) 低合金鋼の低温脆性に就て
神戸製鋼所研究部 工學士○高尾善一郎君
工學士 土屋 秀介君
- 35) 2,000 kg ニッケルクロム鋼及びクロムモリブデン鋼塊の性状に就て
日本製鐵株式会社八幡製鐵所研究所理事
工學博士 小平 勇君
技師○前田 元二君

第2會場

- 53) 含タンゲステン鋼の電気爐製鋼法に就て
神戸製鋼所神戸工場 工學士 大澤 隆三君
工學士○浅田 八良君
- 54) 鹽基性平爐鋼滓の化學的構成に就て (幻燈要)
住友金屬工業株式会社鋼管製造所研究部
理學士 松浦 二郎君
- 55) マンガン・クロム・モリブテン鋼の諸性質に及ぼす脱酸劑の影響
日本特殊鋼株式会社技師 工學士 矢島 忠和君
工學士○舟久保利作君

10 分間休憩

- 56) 製鋼反應の物理化學的研究 (第四報)
(SiO_2)_{gas} + 2[C] ⇌ [Si] + 2CO の測定

- 日本製鐵株式会社技術研究所
理學士○田尻 惟一君
北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
- 57) 製鋼反應の物理化學的研究 (第五報) $CO-SiO_2$ 系鋼滓中の SiO_2 の活動係數の測定
日本製鐵株式会社技術研究所
理學士○田尻 惟一君
北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
- 58) 酸性平爐に依る低ニッケルクロム鋼熔解法の研究
住友金屬工業株式会社製鋼所
工學士○室井嘉治馬君
工學士 山本 信公君

10 分間休憩

- 59) マグネシウム合金 (CZM) 板の壓延に就て (第2報)
東京帝國大學助教授航空研究所員
工學士 麻田 宏君
- 60) 加熱用流體の傳熱率に就て
大阪帝國大學教授 工學博士○岡田 實君
工學士 河野 閏一君

晝 食

午後之部

- 61) 高速度工具に関する研究
吳海軍工廠製鋼實驗部
技師 工學士 堀田 秀次君
- 62) 電熱用鐵・クロム・アルミニウム系合金の性質に及ぼす添加元素の影響 (特に結晶粒の成長に就て) (幻燈手札)
東京帝國大學教授 工學博士 三島 徳七君
財團法人東邦産業研究所
技師 工學士 川勝 一郎君
- 63) 特殊耐熱鋼の高温度特性研究
日本特殊鋼株式会社 工學士○出口喜勇爾君
遠藤 忠君

10 分間休憩

- 64) 重複荷重による疲労に就て (II)
海軍航空技術廠 海軍技師 佐藤 忠雄君
- 65) 砲身燒蝕に就て (幻燈要)
大阪陸軍造兵廠陸軍兵技大佐
工學士 小藪 重行君
- 66) 製鋼反應の物理化學的研究 (第6報) 熔鐵中の珪素の活動係數の測定
横須賀海軍工廠造機部 理學士 伊藤 泰三君
北海道帝國大學教授 理學博士○柴田 善一君

10 分間休憩

- 67) 製鋼反應の物理化學的研究 (第7報) 真空熔融法による酸素、水素及び窒素の精密測定法
日本製鐵株式会社技術研究所
理學士 田尻 惟一君
東京芝浦電気株式会社芝浦支社
理學士○佐藤 宗光君
北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
- 68) 製鐵鋼工場に於ける廢品回收

- 69) 日本鋼管株式會社川崎製鋼所 大西 利一君
 熔鑄溫度測定に關する研究 (第 4 報)
 吳海軍工廠製鋼部 造兵大佐
 工學博士 佐々川 清君
 吳海軍工廠製鋼實驗部技師
 海軍技師 工學士○堀田 秀次君
 吳海軍工廠製鋼實驗部 大室 唯市君
- 70) 白金-白金ロヂウム熱電對の代用品に關する研究
 (第 1 報)
 吳海軍工廠製鋼部 造兵大佐
 工學博士 佐々川 清君
 吳海軍工廠製鋼實驗部
 海軍技師 工學士○堀田 秀次君
 吳海軍工廠製鋼實驗部 大室 唯市君

閉會之辭 會長 渡邊 三郎君
 講演全部終了

工場・研究所見學

第 3 日 4 月 6 日 (月)

班別	見學場所	所 在	出席者 實際 / 申込	集合時刻	備 考
A	東京芝浦電氣株式會社足立製鋼所	足立區沼田川端 2 / 310	71 / 122	午前 9 時 30 分本社玄關	
C	商工省中央度量衡檢定所	京橋區木挽町	17 / 50	午前 9 時同所玄關前	
D	株式會社島津製作所經營工業電氣計器株式會社	板橋區志村前野町 2,000	15 / 58	午前 9 時 30 分本社玄關	
E	株式會社荏原製作所	浦田區羽田 3 丁目	48 / 102	午前 9 時本所玄關	同業者謝絶
F	日本製鐵株式會社富士製鋼所	川崎市大師	95 / 195	午前 9 時 30 分本所玄關	
K	川崎窯業株式會社	川崎市扇町 6	32 / 74	午前 9 時本社玄關前	同業者謝絶
N	日産自動車株式會社	横濱市神奈川區寶町 2 丁目	77 / 122	午前 9 時本社玄關	
R	鐵道大臣官房研究所	芝區海岸通 I 丁目 1 番地	62 / 122	午前 9 時同所玄關前	
S	芝浦共同工業株式會社	横濱市鶴見區末廣町 2 丁目	88 / 177	午前 9 時 30 分本社門前 即ち新芝浦驛前廣場	
T	日本鑄鋼株式會社	城東區大島町 7 丁目 650 番地	63 / 116	午前 9 時 30 分本社第二工場玄關前	
			計 618 / 1,138		

本年は例年に比し櫻の満開が十日早かつた爲、見學の日は咲き揃はんとして誠に好箇の日和なりしが惜しいことに朝來雨模様で、一寸出足を挫かれた爲か、何處の見學場所も出席が大變悪かつたことは大に遺憾とするところで、折角待ち受けて下さつた一殊に町重なるお心盡しの御響應迄準備せられた方々へ對して大に恐縮を感じた次第である。之に反して各見學場に於かれては實に至れり盡せりの御町重なる御案内を受け、見學者一同大に満足喜んで散會することが出来たことは誠に仕合せであつた。

第 27 回 通常總會

日 時 昭和 17 年 4 月 4 日 (土) 午前 11 時 20 分開會午後 0 時 30 分閉會
 會 場 東京市神田區一ツ橋 2 丁目 9 番地 帝國教育會館

會長開會之辭並に議事録

社団法人日本鐵鋼協會會長

工學博士 渡邊 三郎

昨年十二月八日英米に對し開戰の大詔を拜して以來御稜威の下陸海將士の盡忠報國の大精神に燃え奮闘の結果により、赫々たる

戰果を挙げつゝある光輝ある今日、當日本鐵鋼協會が多數の會員諸君の出席を得て、第 27 回總會を開くの光榮を得ました事は眞に御同慶の次第と慶びに堪へざる處であります。先づ開會に先立ちまして國民儀禮を行ひまして謹んで宮城に對し奉り遙拜を致します。次いで支那事變並に大東亞戰爭に於て、護國の鬼となられました幾多戰役將士の英靈に對し、又出征中不幸傷病の勇士に對し感謝の意を表すると共に、出征將士の武運長久を祈りまして默禱を捧げますから御起立を願ひます。(一同起立默禱)

I. 會務報告

1. 本協會の發展 會務を報告するに當りまして、本會其後の發展事情を申述べ度いと存じます。お蔭を以て、當會會員も日増に増加致し、本年 2 月末日迄に、5,223 名に達し、昨年同期に較べ 806 名の増加にして、一昨年同期に比し 1,599 名の増加になつて居ります。時局柄鐵鋼界事業發展の結果とは存じますが前會長役員各位の御努力並に會員諸君の御援助によるものと深く感謝

謝致します。兼ねて自分がお願ひ致しました一人が一會員を生むといふ事には到りませんが前會長齋藤博士からお引継ぎを致しました時の申付けの 5,000 名を超すに至りました事は聊か自分としても責任の一端を果したと考へまして欣快にたへざる所であります。然し、現下帝國の製鐵業の使命の重大に思ひを致す時更に會

員の増加を得、7,000 名或は 1 萬名の多數を會員として入會願ひ度い事を希望して已まざるものであります。

當會の經濟狀態は年と共に益々安固たるものがありまして、之は一に河村前會長が深く御盡力下さつた結果と御一同と共に感謝に堪へざる所で、本會の財産は報告書に御覽の如く 70 萬圓を超す次第で、當會としては尙費用を要する事多く例へば鐵鋼協會會館の建設を控へ一層の資金を要する事と存じますので、又皆さんの御援助を希望して已まざる次第であります。

2. 研究部會 御承知の通り、現時大東亞建設の時に於て、鐵鋼に關する研究が、如何に必要であるかと言ふ事は申し上げる迄もありませんが、歐米技術の脱却を致すべき時に於て、益々此の研究が重要な事となつた次第であります。本協會に於ては、夙に此の點に思ひを致し先年、日本鋼管株式會社よりの多額の研究資金の寄贈を基とし、一層鐵鋼の研究に活氣を呈するに至りました。即ち、昭和 13 年には燃料研究會が開始されまして、日本製鐵株式會社の海野博士を委員長と致し、熔鑄爐の熱勘定、溫度測定法等熔鑄爐に於ける熱的研究を行ひ、更に、平爐の熱勘定研究會を催し成功裡に之が完了を見ました次第であります。又、兵器製造に重要な關係を有する特殊鋼の製造に電氣爐製鋼法が與つて力ある事に思ひを致し、昭和 8 年 10 月以來川崎舎博士を委員

長に願ひ、電氣製鋼研究部會を設け、之に四つの小委員會を置き各々其の道の權威者を幹事に煩はし電氣爐の大いざ、構造、之に用ふる原料、之が作業方法並に術語統計諸問題を研究討議し、本年の如きは委員會を開く事 22 回に及び、昨日は早朝より終日研究を重ね大體成果を得、近く報告を完了するに到りまして其の報告は電氣爐製鋼上得難き貴重なる資料と考へ、電氣製鋼業者に貢獻する事大なるものと信じます。

次は自動車用鐵鋼材の研究部會であります、申すまでもなく、自動車が現下の時局に必要であり、殊に大陸方面にて活動する日本の力に向つては同工業の確立は蓋し重要な事と考へます。就ては、副會長吉川博士を委員長に煩はし、機械學會と聯合して、一昨年以來之が研究に當り、自動車製造方面の技術者と鋼材製造者側の吾々と協力して之が研究を進めつゝあるのであります。更に鑄物協會會長石川博士に委員長を願ひ同協會と本鐵鋼協會の共同により、鋼鑄物の研究部會を設け著々研究を進めて居ります。更に鐵鋼製造上最も必要なる材料として重きをなす耐火材料の研究の大切な事を考へ、日本窯業協會理事長黒田氏に司會を乞ひ、窯業協會と本協會との共同懇談研究會を設け、8 回に互り之が開催を見、眞に有益なる資料を得つゝあるのであります。更に平爐原料に關する研究部會も日本製鐵株式會社の鶴瀨氏を委員長とし昨年 4 月並に 10 月之が開催を致し、有益なる資料を得ました。即ち米國屑鐵輸入の離脱を行ひし今日は、鐵鋼生産上重要な研究と信じます。何れにしても之等研究が皆貴重なる資料にして、會員諸氏は勿論、各官廳工場に於て利用致されましたならば、鐵鋼の増産又は擴充に貢獻する所勘からざるものと信じ、以て本會の使命達成の一部となりますれば本協會の深く満足する所であります。

3. 野田文庫 前會長故野田博士を記念致します野田文庫は引續き和洋各種の専門圖書を集め 400 冊を超え、又専門雜誌も備へ會員の利用に便らしむるやう致して居ります。外國文獻の入手困難なる今日、最も大切な専門圖書館であります。會員各位の御利用をお願い致します。

4. 講演會 春秋 2 回の講演大會の外、當協會に於ては鐵鋼事業上實際技術並に學術方面の講演會を毎月行ふ事に致し、更に最近は有益なる映畫を加へて、會員諸氏に御覽に入れて居りました。最近は獨逸製鋼法の視察を行はれた官、民技術家の方々の御話を承り戰時下に於ける獨逸製鋼事業の現状をうかぶ事を得大いに参考となつた次第で、要するに毎回非常な盛會を重ねて居ります。

5. 鐵鋼要覽 會員諸氏より一日も早く上梓を希望されてゐます鐵鋼要覽も擔當者の努力によりまして、漸く諸氏に御覽に入れる運に致りました事は眞に御同慶にたへざる所であります。同要覽の長時日を要しました事は、他の工業要覽と異り、鐵鋼に關するものは多方面に互り、且、之が執筆に當られし各位は皆其の道の權威者でありまして、此の時局に當り、公私共非常に多忙であつたと言ふ事も其の完成に影響致した次第でありまして深く之が執筆者に對し感謝すると共に各位の御諒解を願ふ次第であります。

6. 次は關西支部 の其後の發展であります、齋藤前會長並に支部長川上博士、其他役員の御骨折によりまして、非常に活躍し居られ、講演會に見學に毎時盛會である事を承知致しまして同方面の會員各位に裨益する所大なるものある事を茲に御報告致し

ます。尙本協會の發展と共に本邦製鐵事業の發達に伴ひ、更に九州方面、朝鮮、滿洲、支那、南洋方面迄支部の設立を見、大東亞圏内の鐵鋼事業の全體に互り本協會の傘下に置く事が出来る時期を希望して已まない次第であります。

7. 製鐵製鋼用参考品展覽會 に就て一言申し上げます。

本年新しき試みとして、鐵鋼製造に必要な原料機械器具並に耐火物等の實物を廣く集め、會員各位並に一般同業者に示す目的を以て東京府の工業獎勵館を借用展覽致しましたから御覽を願ひ度い。此の種の催は獨逸、米國に於ては夙に開催せられ、私も先年ボストンの展覽會を見物致しましたが、非常に盛會であり、業者の之を利用して利益を得る事の大なるものあるを認めた次第であります。

II. 内外製鐵業の趨勢

例により内地並に外國の製鐵業一般について申し上げ度いと存じますが、御承知の通り現戰時下に於て内地に於ては遺憾乍ら數字の發表は出来ませんのと又海外に就ては昨年の總會に申上げた以上數字的の報告の資料を得る事が出来ない事は残念な事でありましたが御諒承願ひ度いと存じます。

扱て支那事變勃發以來引つゞき大東亞戰爭にまで發展せる今日苟も鐵鋼に關係する吾々當協會會員としては總力を擧げて鐵鋼生産の増加又は能力擴充に努力を重ねて居りましたが、一昨年来米國鐵屑輸出禁止以來各技術者の努力により、平爐操業に於て銑鐵の使用量を 70% に増加し、又一方銑鋼一貫工場の完成を急ぎ其の完成を各所に見る事を得ました事は眞に慶事と考へられます。即ち日鐵に於ける廣畑工場の操業、輪西製鐵所並に日本鋼管株式會社の第 4 號爐の完成を見、中山製鋼第 2 號爐既に成り、更に第 3 號爐の建設を決定され又尼ヶ崎製鋼所の熔鐵爐の操業に入りたる如き、製鐵工場の増産を得るに到りました事は眞に結構と存するのであります。又滿洲國に於きましても内地と呼應して活潑なる製鐵業の動きを示し、昭和製鋼所の如き第 4 期計畫中の第 2 號爐は操業に入り、本溪湖に於ける熔鐵爐も一基は既に操業に入り、之等を以て滿洲國製鐵増産の機運は一層進みたりと言ふ事が出来るのであります。

其他製鋼原料不足を補はんが爲、回轉爐による粒鐵、海綿鐵の製造又他の方法により原鐵の製造に關しては三菱鐵業清津工場、昭和製鋼所等の外、日本特殊鋼管、川崎重工業、日本砂鐵、其他工場の完成を見、此の種の原料の増産も期待せらるゝと同時に、之が品質の改良に於ても苦心の結果、見る可きものある事は御同慶の次第であります。

次に特殊鋼 について一言申し上げますが

今回大東亞戰爭に當り此の赫々たる戰果は、陸海將兵の奮戦による事は勿論の事ではありますが、之に直接使用せる兵器の優秀性の與つて力ある事もあります。従つて、兵器製造に重要な役目を持つ特殊鋼材の優良なる事も與つて力ある事は之一に本邦特殊鋼製造技術の進歩によるものであります。而して一面時局當込を目的とせる小規模なる特殊鋼製造業の一時亂立を見る如き感がありましたが、今日では人的資源の不足に加ふるに原料燃料の不足と相俟つて非能率的にして品質優良ならざる特殊鋼を製造する工場は整理統合を行はんとする氣運に立到り、商工省に於ても特殊鋼技術指導委員會其他の方法によつて技術の向上を畫ると同時に優良なる製品の製造の望なき工場は整理を斷行する方針に

進みつゝあるやに聞き及び居るを以て、一時使用者側に不安の念を抱かしたる本邦特殊鋼の品質粗悪なりといふ批判は一掃せられ益々品質の向上生産の増大と共に内地特殊鋼自給の實を全うする事に進みつゝある事は慶賀の次第であります。

海外の事情 については、時局柄昨年御報告申した以上の的確ある統計を手に入れる事困難にして、委しく申上げる事が出来ないのは遺憾とする所であります。何れにしても歐洲大戰以來更に大東亞戦争の結果、各國の製鐵事業に非常な變化を來して居ると存じます。即ち獨逸はザール、オーストリア、チエコスロヴァキヤ等占領七ヶ國の製鐵能力を加ふる時は優に鉄鐵 2500 萬噸、製鋼 4500 萬噸の能力を有する事は推定され、英國は、1940 年には鉄鐵 840 萬噸、製鋼 1330 萬噸を擧げて居りましたが、スエーデンの鑛石入手困難に加へ、非常な減産を來して居る事は想像に難くない次第であります。米國は 1940 年に鉄鐵 5919 萬噸、製鋼 5900 萬噸を出して居りますが歐洲大戰勃發以來製鋼能力の増加を來し、全能力の 90% 以上に進んで居ると推察出来ますので、1941 年 3 月には 1 ヶ月出鋼 700 萬噸に及び、米國製鋼界の新記録を産出し、米國鐵鋼協會會長タワーの述ぶる所によれば 1 年に 8500 萬噸を出すと豪語して居り、世界の 48% を出して居り、1942 年には 1 億 14 萬噸に達せしめると述べて居る事は眞に注意すべき事實であります。又同國電氣爐製鋼は戦争勃發と共に操業率増加し 1940 年には 140 萬噸に達して居るのであります。ソ聯に於ては 5 ヶ年計畫の遂行により急激なる増産を來し、1942 年には製鋼 700 萬噸以上に達して居りましたが、獨逸開戦後は其の製鐵工業地帯が獨逸の攻撃により減産を來しつゝあるものと推察されます。以上の如く米國の鐵鋼業の老成なる増産は、直に本邦の國防に影響する事重大であります故に、本邦製鐵事業に關係する吾々としては一大の決意と努力を要する次第であります。緒戦以來大戦果を擧げ、今や陽々たる希望の光が大東亞に輝き、比島に、マレーに、ボルネオに、ジャバに皇軍の戦果は増々進み過去 300 年間英米蘭の飽く無き搾取の結果暗黒時代に喘いで居た南方諸民族が初めて光明に浴する事を得、従つて、南方無限の資源は東亞十億の民族に還つて來たのであります。其の指導者たる日本鐵鋼界に従事する吾々は此の資材を以て英米に對し國威發揚の目的たる鐵鋼生産を確立せん事を希望して已まざる次第であります。今占領地域其他に於ける資源を一瞥しまするに、

イ) 鐵鋼石

比島一埋藏量は 10 億噸、年産 120 萬噸と云はれてゐる。最大はラブ島のマンブラウで品位は 55%、年産 55 萬噸、其他サマル島が 30 萬噸、マリンドケ島から 20 萬噸産出する。

ミンダナオ島—スリガオ州では品位 42% の磁鐵鋼(但 35% 位のクロムを含有する)が 4 億噸以上と推定される。

マレー—埋藏量は 2 億噸と稱せられ、主なるはジョホール及びトレンガヌ等である。

蘭領ボルネオ—セブク島に 1 億噸、スンゲイドア地方にニッケルを含む品位 45% の鐵鋼石 4 億噸と稱せられる。

英領ボルネオ—相當の埋藏量ある見込である。

セレベス島—中央セレベスに埋藏量 10 億噸と推定される。

佛印—タンゲエン地方ハノイ市北方 50 料にあたり、品位 60% の赤鐵鑛と、52% の褐鐵鑛の鑛床があり、埋藏量豊富と云はれて居る。

海南島—石綠山及び田獨山に品位 60% 以上で埋藏量 2 億噸以上

云はれて居る。

其他合金原料に就て

ロ) クロム鑛石

比島—ルソン島サンパレス州に埋藏量 1 千萬噸で世界一と稱せられてゐる。

佛印—北部アンナンノヴァンアンとニューア地方一帯長さ 20 料に亙る鑛床で、品位は 52% のもの埋藏量 200 萬噸以上と稱せられて居る。

ハ) マンガン鑛石

比島—ブスプンガ島から 40 萬噸シキホール島から 20 萬噸合計 60 萬噸、此の外リガエン灣附近の山と、ルソン島イロイロ州ブルゴスに有望鑛區がある。

英領ボルネオ—試掘がなされ、相當な埋藏があると云はれる。

佛印—トンキンのモリナム褐鐵鑛區で鐵鑛の發掘と共に産出される他、數年前からハーティエン州のチャンティエンに鐵鑛と共存するもの、未開發のものではハノイ及びナシヤム鐵道沿線に豊富な鑛區がある。

ニ) ニッケル

セレベス島—ボツツ、マタノ、トウチ 4 湖の周邊とボニ灣北東岸にあり、最近での數字は發表を見ないが 3 萬噸以上と推定される。

ニューカレドニア—鑛量 30 萬噸以上と稱せられる。

ホ) タングステン

佛印—トンキン東北部ピアウアク群山にあり、埋藏量多く本邦の需要を充し得ると云はれる。

ヘ) 石炭

英領ボルネオ—ラブアン島、ブルネイ、北ボルネオに有望な炭田があるが、未だ積極的に開發されて居らない。

佛印—年産 260 萬噸で、南洋第一である。輸出能力は 180 萬噸以上である。ホンゲイ炭で知られて居る。其埋藏量は百億噸と推定され、其他トンキン地方には炭田多く、又、ラオス、安南北部、中部に優良な炭田があり、總埋藏量は 200 億噸を超えると云はれて居る。

以上述べました丈でも豊富なる事は驚くべく、其他ビルマの鐵鑛石、タンゲステン、石油等を加ふれば製鐵用資源に於ては洋々たるもので、帝國官民一致の努力により、造船、運輸、陸揚港灣に非常なる努力を以て之を克服完成し、有利に利用しなければ折角の血を以て賸ひ得た此の貴き寶も、持ち腐れとなる譯であります。之を思ふ時、官民各位一層の勇往邁進を希望して已まない次第であります。

次に今總會を以て私の會長の任も満了となりまして、次の會長を日本鋼管株式會社の重役松下長久氏にお願いする事でありませうから、此所に御披露申し上げると同時に、大過無く 2 年間相勤めました事は、一に前會長、役員諸氏の御指導による事と存じますが、會員諸氏の熱心なる御支援の然らしむる所と厚く謝意を述べる次第であります。

III. 議 事

次は收支決算及び豫算を議題に上せ度いと存じます。今日の出席會員の數は委任狀とも 2,313 名で正會員數 2,498 名の約 9 割 7 分であります。正會員數の 1 割あれば宜しいのであります故、如何なる決議をなさつても充分な出席會員數を得て居るのであります。

す。

1. 理事及び評議員の改選 就きましては今回理事及び評議員の改選がありますので、時間の関係上繰上げて此の選挙を願ひ度いと存じます。投票をお持ちになつた方はどうぞ御投票を願ひます(此の時會員2名投票)。就きましては其の開票の御立會に、御迷惑ですが評議員の川上義弘君と金子恭輔君に御願ひ致し度いと

思ひます。

2. 豫算及び決算 本會の豫算決算の表はお手許に差上げて御座いますから、夫で御諒承を得て、監事の御報告を願ひ度いと存じますが、宜しう御座いますか(「異議なし」と呼ぶ者あり)、御異議がなければ引續き監事の會計御報告を願ひ度いとと思ひます。

I. 會 務 及 び 會 計 報 告

第 27 回通常總會 昭和 16 年度會務報告 (自昭和 16 年 3 月 1 日 至昭和 17 年 2 月 28 日)

1. 集 會

通常總會	臨時總會	理事會	評議員會	編 輯		服部博士 記念資金 委員會	野田文庫 委員會	日鋼資金 委員會	講 演 (東京) 大 會 (東京)	臨時講演會				
				幹事會	委員會									
1	—	12	1	9	12	1	1	2	2	7				
研 究 會														
電 氣 製 鋼						燃料經濟	鋼 鑄 物 (鑄物協會と聯合)			自動車用鐵鋼材 (機械學會と聯合)	耐 火 煉 瓦 (耐火物協會と聯合)		製 鋼 用 原料 (平爐)	
委員總會	幹事會	第一小委員會	第二小委員會	第三小委員會	第四小委員會	熔鑄爐熱勘定	委員總會	幹事會	第一小委員會	第三小委員會	委員會	回轉爐用研究會		トリペ用規格研究會
1	1	8	4	7	2	1	0	3	1	1	2	1	7	2

2. 會 員 異 動

	名譽會員	維 持 會 員		贊助會員	正 會 員	准 會 員	計
		員 數	口 數				
入 會 者	0	+3	+3(+1)	0	+186	+705	894
轉 格 者		+1	+1	0	+ 11	- 12	-
退 會 者		-2	-1(-1)	0	- 27	- 37	- 66
死 亡 者	-1			-1	- 12	- 8	- 22
昭和 17 年 2 月末日現在	13	58	155	23	2,404	2,725	5,223
前年 同 期 對 增 減	-1	+2	+3	-1	+158	+648	+806

維持會員口數欄に () を附したるは退會したるも他維持會員へ其の口數を受繼したるものなり。

備 考 (イ) 名譽會員 新加入者なし (ロ) 維持會員新加入及び異動

新 加 入	退 會	事 由
豊田製鋼株式會社 1口		
東北金屬工業株式會社 1口		
大同製鋼株式會社大阪支店 1口	富永鋼業株式會社 1口	正會員より轉格
東京芝浦電氣株式會社 1口	東邦鋼業株式會社 1口	改稱 繼承
興國鋼線索株式會社 1口		合併 改稱 繼承

(ハ) 贊 助 會 員

新加入者なし

(ニ) 死 亡 者

名譽會員 今泉嘉一郎君

贊助會員 武田秀雄君

正 會 員

大島 和夫君 壁谷友太郎君 金原 信泰君 阪口 好雄君

志賀 潔君 仲光 正保君 中村 榮一君 廣瀬 亞次君

蒔田 一枝君 森孫 四郎君 山口 圭次君 渡邊 新君

准 員

磯野 禮三君 倉林 英治君 貞富彌太郎君 高寺 健吉君

田中 博君 鶴 榮次君 中村 章君 藤本 慶一君

3. 會誌發行及び印刷

(イ) 本會會誌「鐵と鋼」自第 27 年第 3 號至第 28 年第 2 號

(ロ) 研究報告 (單獨又は會誌附録として配布)

○電氣製鋼研究會報告(III)

○熔鑄爐熱勘定研究會報告(I)

○同 上 (II)

○製鋼用原料(平爐)研究會報告(I)

- (ハ) 講演大會講演大要 春秋 2 回
- (ニ) 會 員 名 簿 1 回

4. 庶務事項

A. 第 26 回通常總會 昭和 16 年 4 月 2 日

- イ 任期滿了役員、評議員改選並に新增員評議員選舉
- ロ 昭和 15 年度會務報告
- ハ 昭和 15 年度收支決算報告
- ニ 昭和 16 年度收支豫算報告
- ホ 服部賞牌及び服部賞金贈呈式
- ヘ 香村賞牌及び香村賞金(第 9 條適用)贈呈式
- ト 依賞金贈呈式
- チ 渡邊賞牌及び賞金贈呈式

B. 理 事 會 (毎月第一水曜日)

- 1) 入退會者審査承認
- 2) 毎月會務並會計事項審査
- 3) 編輯委員會に幹事會を置くこととし次の理事及委員に幹事を委嘱す

理 事 吉川 晴十君 田中 清治君 鹽澤 正一君
 編輯委員 依 信次君 前田 六郎君 横山 均次君

- 4) 編輯委員委嘱更改
 委員解囑 石田 求君 銅金 義一君
 委員委囑 岡部 長衛君 菊池 浩介君 橋本 正一君

- 5) 電氣製鋼研究會委員委嘱更改
 委員解囑 (第一小委員會) 加藤 修君
 (第四小委員會) 田子島茂次君
 委員委囑 (第一小委員會) 藤田新三郎君 入江 仁壯君
 (第四小委員會) 高橋哲四郎君

- 6) 鋼鑄物研究會委員委嘱更改
 委員解囑 (第一小委員會) 石田 求君
 (第四小委員會) 石田 求君
 委員委囑 (第一小委員會) 橋本 正一君
 (第四小委員會) 橋本 正一君

- 7) 日本鐵鋼協會、大日本窯業協會聯合「トリベ」用耐火物研究會委員委嘱
 委 員 井村 竹市君 石原 善雄君 松下 長久君

- 8) 大日本窯業協會と聯合回轉爐用耐火物煉瓦研究會開催
- 9) 全日本科學技術團體聯合會の依頼に應じ標準用語制定専門委員を派出することとし次の如く委員を委嘱す
 日本鐵鋼協會選出専門委員 鹽澤 正一君

- 10) 日本鐵鋼協會推薦 帝國海事協會技術委員滿期に付き委嘱更改
 舊委員 吉川 晴十君 齋藤 大吉君 佐々木新太郎君
 新委員 吉川 晴十君 鹽澤 正一君 渡邊 三郎君

- 11) 故今泉博士記念資金募集

C. 評 議 員 會

- 1) 理事 7 名改選に就き推薦候補者選定
- 2) 監事 1 名選舉 (第 27 回通常總會終了後就任)
- 3) 評議員半数改選に就き推薦候補者選定
- 4) 評議員 2 名補缺員選定
- 5) 昭和 16 年度收支決算審査
- 6) 昭和 17 年度收支豫算決定
- 7) 香村博士寄贈資金取扱規則の改正

- 8) 依 博士記念資金取扱規則の改正
- 9) 香村賞金(第 9 條適用)受領者選定
 受領者 宗宮 尙行君 後藤 有一君
- 10) 依賞受領者選定
 學術上優秀論文 菅野 猛君
 「熔鋼の輻射率に關する研究」鐵と鋼第 27 年第 2 號
 技術上優秀論文 堀田 秀次君
 「高速度工具に關する研究」鐵と鋼第 27 年第 6 號
- 11) 渡邊賞牌受領者選定
 受領者 川上 義弘君
 渡邊賞金受領者選定
 受領者 前田 六郎君 中務 信次郎君
 森岡 進君 森脇 和男君

D. 編輯委員會 (毎月最終木曜日)

- 1) 會誌每號掲載原稿審査選定
- 2) 會誌每號掲載翻譯及び抄録擔當
- 3) 會誌並其の他刊行物の編輯
- 4) 講演大會研究會等の開催準備並に其の實施
- 5) 製鐵製鋼用參考品展覽會開催の企畫及び其の實施
- 6) 鐵鋼要覽の編纂
- 7) 購入圖書の選定

E. 服部博士記念資金委員會 (昭和 17 年 2 月 20 日)

- 1) 第 12 回服部賞 受領者選定
 賞金受領者 柴田 善一君 廣瀬 政次君 垣内富士雄君
 吉田清三郎君 桑田 賢二君 吉田松次郎君
- 2) 昭和 16 年度服部博士記念資金收支決算審査
- 3) 昭和 17 年度服部博士記念資金收支豫算決定

F. 野田文庫委員會 (昭和 17 年 2 月 20 日)

- 1) 野田文庫委員委嘱(同記念資金取扱規則第 3 條に據る)
 井村 竹市君 石田 四郎君
- 2) 購入圖書の選定
- 3) 圖書目錄の編纂
- 4) 昭和 16 年度收支決算の審査
- 5) 昭和 17 年度收支豫算の決定

G. 日本鋼管資金委員會 (昭和 16 年 6 月 4 日 昭和 17 年 2 月 20 日)

- 1) 講演用幻燈機二基購入
- 2) 製鐵製鋼用參考品展覽會費用支出の件
- 3) 昭和 16 年度收支決算の審査
- 4) 昭和 17 年度收支豫算の決定

H. 官 廳 事 項

- 1) 文部大臣及び東京府知事宛 昭和 15 年度事業狀況報告及び昭和 16 年度收支豫算報告書提出
- 2) 資産の總額變更登記(昭和 16 年 4 月 12 日)
- 3) 會誌「鐵と鋼」編輯人及び發行人變更届出(昭和 16 年 6 月 16 日)
 舊編輯兼發行人 村松 橋太郎君
 新編輯兼發行人 日下 宗基君

I. 事 務 員 異 動

採用年月日	解僱年月日	氏名	事由
—	昭和 17-2-25	小田 忠介	(卒業)就職
—	昭和 16-11-25	中村 敏雄	(卒業)就職

昭和 16-8-20 — 須永 菅夫
 昭和 16-7-10 — 五月女 律
 昭和 16-9-3 — 山本 榮
 昭和 16-9-10 — 石丸 照明
 昭和 16-6-12 より應召中の處昭和 17-2-1 歸還
 田邊 正信

勝間 春三君 吉弘 良夫君 米樹健治郎君
 横山 武人君 高橋 清君 多賀谷正義君
 田中 勘七君 田村 宣武君 室井嘉治馬君
 栗本勇之助君 楠瀬 四郎君 山田 貞雄君
 樹田 定司君 藤井 寛君 小森 富作君
 小藪 重行君 齋藤 大吉君 澤村 宏君
 佐久間友二君 坂田 信毅君 絹川武良司君
 廣瀬 亞夫君 森崎 晟君 杉本 正邦君
 川上 義弘君
 井上 順三君 西山彌太郎君 川端 駿吾君
 米樹健治郎君 高橋 清君 多賀谷正義君
 室井嘉治馬君 楠瀬 四郎君 藤井 寛君
 小森 富作君 齋藤 大吉君 澤村 宏君
 廣瀬 亞夫君 森崎 晟君

J. 日本鐵鋼協會關西支部

1) 總會 (17-1-26) 1 回……出席者 30 名

- イ) 昭和 16 年度事業報告
- ロ) 昭和 16 年度決算報告
- ハ) 昭和 17 年度豫算決定

2) 商議員會 4 回

- イ) 平爐技術懇談會內規決定

ロ) 商議員, 支部長, 幹事の互選

商議員 井上 順三君 西山彌太郎君 堀田 美之君
 大崎善三郎君 川上 義弘君 川端 駿吾君

支部長
 幹事

3) 例會

イ) 講演會

回数	年月日	演 題	講 演 者	講演時間	聴講者數
第 12 回例會	16-7-5	一. 尼崎製鐵株式會社製鐵所企畫概要 一. 尼崎製鐵所の設計並建設工事概要	同社銑鐵課長 市田 左右一君 同社工務課長 澤田 龍郎君	時間分 1-30	300
第 15 回例會	17-1-26	一. 南方鐵產資源に就て	大阪帝國大學講師 清水 要藏君	2-0	60

ロ) 見 學

回数	年月日	見 學 場 所	參加人員
第 11 回例會	16-5-3	1. 久保田鐵工所恩加島工場 2. 日本製鐵株式會社大阪製鐵所	200 名
第 12 回例會	16-7-5	1. 尼崎製鐵株式會社各工場	300 名
第 13 回例會	16-9-28	A班 山陽利器製造株式會社利器工場及び附近工場 B班 三木重工業株式會社	68 名 45 名
第 14 回例會	16-11-22	A班 淀川製鋼所 B班 日窒寶石株式會社	

5. 講演大會

第 25 回 講演大會 昭和 16 年 4 月東京に於て 出席者 691 名 講演數 54

第 26 回 講演大會 昭和 16 年 10 月東京に於て 出席者 676 名 講演數 48

6. 講演會

回数	年月日	演 題	講 演 者	講演時間	聴講者數
第 1 回	16-3-24	一. 金屬の可塑性變形 一. 映畫 { 1. 海國日本 2. 金屬破壞の顯微鏡寫眞 3. 國際科學=ユース第五輯 4. 或日の干潟	東京帝大工學部助教授 工學博士 理學士 谷 安正君	時間分 1-10 1-30	130
第 2 回	16-5-20	一. 製鋼原鐵に就て 一. 映畫 { 1. 潜水艦黒潮 2. 振 錐 3. 闘ふ銃後	東京工業大學教授 工學博士 武井 武君	1-50 1-20	120
第 3 回	16-6-12	一. 海南島の鐵鑛資源に就て 一. テルニ式平爐に就て	日鐵鑛業株式會社探鑛課長 熊丸 徹君 住友金屬工業會社鋼管製造所研究部長 工學博士 理學士 絹川武良司君	0-45 1-10	140

第4回	16-9-18	一. 山西省の製鐵視察談 一. 映畫 { 1. 獨逸國に於ける兵器製造工場 獨逸大使館提供 2. 獨逸國戰線 ニュース (唸るカメラ) 3. 理研文化映畫 (陽炎)	藤田 清一君	1-40 1-0	106
第5回	16-12-15	一. 鋼の電解研磨に就て 一. 電子顯微鏡に就て	東京工業大學精密機械研究所 工學士 田中 實君 逓信省電氣試驗所 工學博士 鈴木 重夫君	1-0 1-30	38
第6回	17-1-28	一. 戦時下獨逸旅行談 一. 映畫 { 1. 艦隊航進譜 海軍々事普及部 2. 日本 ニュース	古河電氣工業會社取締役 金屬材料部長 工學士 西村 啓造君	1-20 0-50	218
第7回	17-2-9	一. 戦時下獨逸の製鋼技術に就て 一. 映畫 { 1. 日本 ニュース 2. 泰國大野象狩	廣海軍工廠 海軍技師 西 武雄君	2-0 1-20	381

7. 研究調査事項

研究部會回次	部 門 別	題 名	開 催 年 月 日	開催地名
第 23 回 研 究 會	第 13 回 製 鋼 部 會	電氣製鋼研究會(第4次)	昭和 16 年 4 月 1 日	東 京
日本鐵鋼協會聯合部會	座 談 會	第1回製鋼用原鐵(平爐)研究會	同 上	東 京
大日本窯業協會	同	第1回トリベ用耐火物の規格統一研究會	昭和 16 年 4 月 8 日	東 京
同	同	第2回 同	昭和 16 年 5 月 31 日	東 京
同	同	第3回 同	昭和 16 年 6 月 28 日	東 京
同	同	第4回 同	昭和 16 年 7 月 26 日	東 京
同	同	第5回 同	昭和 16 年 8 月 30 日	東 京
同	同	第6回 同	昭和 16 年 11 月 1 日	東 京
同	同	第7回 同	昭和 16 年 12 月 13 日	東 京
同	特別座談會	回轉爐用耐火物研究會	昭和 16 年 7 月 17 日	東 京
第 24 回 研 究 部 會	第 5 回 燃 料 經 濟 部 會	第5次平爐熱勘定研究會	昭和 16 年 6 月 23 日	東 京
第 25 回 研 究 部 會	第 14 回 製 鋼 部 會	第2回製鋼用原鐵(平爐)研究會	昭和 16 年 10 月 17 日	東 京
日本鐵鋼協會委員會聯合部會	座 談 會	自動車用鐵鋼材研究會	昭和 16 年 3 月 13 日	東 京
日本機械學會材料部門	同	同	昭和 16 年 11 月 1 日	東 京
同	同	同	昭和 16 年 11 月 1 日	東 京
第 26 回 研 究 部 會	第 15 回 製 鋼 部 會	電氣製鋼研究會(第5次)	昭和 17 年 4 月 3 日	東 京

8. 表 彰 (昭和 16 年 4 月 2 日第 26 回通常總會に於て贈呈)

A. 第 11 回服部賞牌及び賞金贈呈

賞牌受領者

吳海軍工廠製鋼部々員海軍造兵大佐 工學博士 佐々川 清君

賞金受領者

株式會社神戸製鋼所製鐵部長參事 工學士 芦原光太郎君

吳海軍工廠製鋼部實驗部實驗工手 大室 唯市君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所第一「コークス」課長

大野 宏君

B. 香村賞牌及び賞金(第9條適用)贈呈

賞牌受領者

東北帝國大學教授 理學博士 理學士 遠藤 彦造君

商工省鐵鋼局調整課長商工技師 工學士 足立 泰雄君

賞金受領者(第9條適用)

日本鋼管株式會社技師 根本 茂君

株式會社日本製鐵所室蘭製作所技師 結城 竹治君

大阪陸軍造兵廠 陸軍技師 百合 壽馬君

南滿洲鐵道株式會社大連鐵道工場副參事 渡邊 義雄君

C. 第7回俵賞金贈呈

學術上優秀論文

海軍技術研究所々員海軍技師 工學士 早矢仕 功君
技術上優秀論文

日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究部技師

工學士 大原 久之君

D. 第3回渡邊賞牌及び賞金贈呈

賞牌受領者

株式會社日本製鐵所室蘭製作所企畫部長 工學士 甲藤 新君

賞金受領者

大阪陸軍造兵廠研究所陸軍技師 朝倉 潮君

三菱重工業株式會社社長崎製鐵所技師 理學士 河合 正吉君

日本特殊鋼株式會社製鐵工場主任技師 古賀喜衛門君

日本特殊鋼株式會社技師 松井源次郎君

9. 圖 書

寄贈圖書受付總數 和書 14 冊

野田文庫購入圖書 洋書 19 冊 和書 2 冊 合計 36 冊

其他購入圖書 和書 1 冊

以上報告候也

昭和 17 年 4 月 4 日

社團法人 日本鐵鋼協會々長 理事

工學博士 渡 邊 三 郎

貸 借 對 照 表

第 (1) 號

(昭和 17 年 2 月 末 日)

勘 定 科 目 (資 産)	内 譯	合 計	勘 定 科 目 (負 債)	内 譯	合 計
(什 器)		3,382.56	(未 收 會 費 見 返)		1,837.10
(電 話)		800.00	小 計		1,837.10
(圖 書)		1,439.59	(資 金)		710,485.27
(敷 金)		855.00	前年度より繰越高	700,475.36	
(保證金代用有價證券)		1,274.84	本年度増加額	10,009.91	
會誌發行保證金	907.00		別口資金 ¥ 8,139.98		
約束郵便保證金	367.84		事業資金 ¥ 1,869.93		
(分讓印刷物)		250.00	昭和 17 年 2 月 末 日		
以上六口固定資産			資 金 内 譯		
¥ 8,001.99			鐵鋼資料編纂資金	15,048.65	
(有 價 證 券)		12,839.50	事務員退職給與基金	4,071.37	
(信 託 金)		59,404.63	會館建設基金	5,138.06	
(銀行預金)		12,105.35	服部博士記念資金	20,728.01	
定期預金	2,717.48		香村博士寄贈資金	26,775.63	
特別當座預金	9,387.87		俵博士記念資金	5,172.15	
(振替貯金(口座基金を含む))		25,161.82	河村博士寄贈資金	6,479.87	
(現 金)		396.15	野田文庫資金	135,486.53	
以上五口流動資産			日本鋼管會社寄贈資金	318,858.29	
¥ 109,907.45			日本特殊鋼會社 同	54,817.27	
(別口野田文庫資産什器)		3,221.50	別 口 資 金 計	592,575.83	
(同 圖 書)		10,339.49	事 務 資 金	117,909.44	
(別口資金見返有價證券)		243,070.00		710,485.27	
服部博士記念資金	20,000.00				
香村博士寄贈資金	20,000.00				
俵博士記念資金	5,000.00				
日本鋼管會社寄贈資金	193,070.00				
(別口資金見返信託金)		261,617.93			
河村博士寄贈資金	6,479.87				
野田文庫資金	100,000.00				
日本鋼管會社寄贈資金	100,000.00				
日本特殊鋼會社 同	50,000.00				
會館建設基金	5,138.06				
(別口資金見返銀行預金)		73,712.12			
服部博士記念資金	728.01				
香村博士寄贈資金	6,775.63				
俵博士記念資金	172.15				
鐵鋼資料編纂資金	15,048.65				
野田文庫資金	21,310.75				
日本鋼管會社寄贈資金	20,783.29				
日本特殊鋼會社 同	4,817.27				
事務員退職給與基金	4,071.37				
(別口野田文庫見返振替預金(口座基金を含む))		614.79			
以上六口別口資金見返資産					
¥ 592,575.83					
(未 收 會 費)		1,837.10			
		712,322.37			712,322.37

昭 和 16 年 度 收 支 決 算

第 (2) 號

(自 昭 和 16 年 3 月 1 日 至 昭 和 17 年 2 月 末 日)

支 出	内 譯	合 計	收 入	内 譯	合 計
(會 誌 印 刷 費)		25,251.02	(維 持 會 員 會 費)		15,600.00
(版 類 製 作 費)		2,595.06	(贊 助 會 員 會 費)		0
(別 刷 印 刷 費)		3,469.21	(正 會 員 會 費)		21,387.46
(原 稿 料)		2,192.28	(准 會 員 會 費)		17,686.51
(約 束 郵 便 料)		1,299.53	(入 會 金)		1,054.00
(俸 給 及 手 當)		13,332.00	(印 刷 物 分 讓 料)		4,686.38
(借 室 料)		3,420.00	(廣 告 料)		13,805.00
(會 合 費)		1,306.38	(公 社 債 利 子)		710.48
(日 本 工 學 會 費)		200.00	(振 替 貯 金 利 子)		490.44
(講 演 會 費)		1,639.67	(銀 行 預 金 利 子)		236.63
(事 務 費)		7,062.31	(信 託 預 金 利 子)		2,165.97
(關 西 支 部 費)		960.00	(鐵 鋼 試 料 分 讓 料)		20,959.83
(圖 書 費)		10.00	(雜 收 入)		38.42
(什 器 費)		850.00	(日 鋼 資 金 より 繰 入)		850.00
(大 會 費)		5,345.70			
(鐵 鋼 試 料 買 入 代 金)		22,449.00			
(會 館 建 設 基 金)		5,000.00			
(事 務 員 退 職 給 與 基 金)		2,000.00			
(約 束 郵 便 擔 保 金 追 納)		230.00			
(豫 備 金)		279.03			
小 計		98,891.19			
收入差引收入超過額		779.93			
		99,671.12			99,671.12
			本年度資金増額照合表		
			收 入 増 額		779.93
			(上 記 の 通 り)		
			(差 引)		(+) 1,090.00
			支 出 中 資 産 に 還 元 額		
			約 束 郵 便 擔 保 金	(+) 230.00	
			圖 書 費	(+) 10.00	
			什 器 費	(+) 850.00	
			計	1,090.00	
			合 計 本 年 度 資 産 増 額		1,869.93

昭和十六年度

別口資金收支決算表

第(3)號

(自昭和16年3月1日 至昭和17年2月末日)

口 別	支 出	金 額	收 入	金 額	備 考
(1) 鐵鋼纂資料金	(雜 給)	757.20	(銀行預金利子)	333.20	
	(印 刷 費)	2,870.94	小 計	333.20	
	(雜 費)	6.70	前年度より繰越金	18,350.29	
	小 計 收支差引次年度へ繰越金	3,634.84 15,048.65		18,683.49	
		18,683.49			
(2) 事務員退職金	次年度へ繰越金	4,071.37	(普通會計より繰入金)	2,000.00	
			(銀行預金利子)	61.57	
		4,071.37	小 計	2,061.57	
			前年度より繰越金	2,009.80	
		4,071.37		4,071.37	
(3) 會設基金	次年度へ繰越金	5,138.06	(普通會計より繰入金)	5,000.00	
			(信託收益)	138.06	
		5,138.06		5,138.06	
(4) 服部博士記念資金	(賞 金)	300.00	(公債利子)	1,000.00	
	(賞 牌 製作費)	22.50	(銀行預金利子)	5.92	
	(同 刷 費)	300.00	小 計	1,005.92	
	(受 賞 者 招 待 費)	20.00	前年度より繰越金	411.33	
	(賞 狀 用 紙 及 び 揮 毫 料)	5.08			
	(信 託 手 數 料)	10.00			
	(印 刷 費)	28.44			
	(雜 費)	3.22			
小 計 收支差引次年度へ繰越金	689.24 728.01			1,417.25	
		1,417.25			
(5) 甲、 香村贈博士金	(賞 牌 製作費)	22.50	(公債利子)	250.00	
	(同 刷 費)	300.00	(銀行預金利子)	8.76	
	(印 刷 費)	7.21	小 計	258.76	
	(受 賞 者 招 待 費)	5.00	前年度より繰越金	683.35	
	(賞 狀 揮 毫 料)	1.28			
	(雜 費)	46			
小 計 收支差引次年度へ繰越金	336.45 605.66			942.11	
		942.11			
(5) 乙、 香村贈博士金	(賞 牌 製作費)	22.50	(公債利子)	750.00	
	(同 刷 費)	300.00	(銀行預金利子)	108.37	
	(賞 金)	400.00	小 計	858.37	
	(印 刷 費)	36.05	前年度より繰越金	6,105.91	
	(受 賞 者 招 待 費)	25.00			
	(賞 狀 揮 毫 料)	6.35			
	(雜 費)	4.41			
	小 計 收支差引次年度へ繰越金	794.31 6,169.97			6,964.28
		6,964.28			
(6) 依博士記念資金	(賞 金)	200.00	(債券利子)	215.00	
	(賞 狀 用 紙 及 び 揮 毫 料)	2.54	(銀行預金利子)	1.59	
	(受 賞 者 招 待 費)	10.00	小 計	216.59	
	(印 刷 費)	14.22	前年度より繰越金	183.92	
	(雜 費)	1.60			
	小 計 收支差引次年度へ繰越金	228.36 172.15			400.51
		400.51			

口 別	支 出	金 額	收 入	金 額	備 考
(7) 河村博資金	次年度へ繰越金	1,479.87	(信託收益) (臨時ボーナス)	238.67 37.21	
		1,479.87	小計 前年度より繰越金	275.88 1,203.99	
(8) 野田文庫資金	次年度へ繰越金	21,925.54	(信託收益) (定期預金利子) (銀行預金利子) (振替貯金利子)	3,800.00 448.02 101.53 14.40	支出中資産に還元額圖書費 ¥ 772.53
		23,495.44	小計 前年度より繰越金	4,363.95 19,131.49	
(9) 日本會社寄贈株式	次年度へ繰越金	20,788.29	(公債利子) (社債利子) (信託收益) (銀行預金利子) (立替金回収)	3,500.00 4,200.00 3,800.00 437.03 468.13	1. 什器費 ¥ 850.00 は普通會計へ繰入、幻燈機購入す 1. 収入の部立替金回収は日本機械學會と聯合自動車用鐵鋼材研究會費本會にて立替拂金なり
		34,256.47	小計 前年度より繰越金	12,405.16 21,851.31	
(10) ₁ 甲 日本會社寄贈株式	次年度へ繰越金	1,278.46	(信託收益) (銀行預金利子)	760.00 14.28	
		1,614.84	小計 前年度より繰越金	774.28 840.56	
(10) ₂ 乙 日本會社寄贈株式	次年度へ繰越金	3,538.81	(信託收益) (銀行預金利子)	1,140.00 50.47	
		3,995.91	小計 前年度より繰越金	1,190.47 2,805.44	

展覽會場内部(第498頁参照)



財 產 目 錄

第(4)號

(昭和17年2月末日現在)

摘 要	昭和16年2月 末 日 現 在	昭和17年2月 末 日 現 在	差 增 (+)	引 減 (-)	備 考
資 産 之 部					
(什 器)	2,532.56	3,382.56	(+)	850.00	
(電 話)	800.00	800.00			
(圖 書)	1,429.59	1,439.59	(+)	10.00	
(敷 金)	855.00	855.00			
(保證金代用有價證券)	1,044.84	1,274.84	(+)	230.00	
甲號五分利公債額面壹千圓會誌發行保證金	907.00	907.00			
み號同壹百五拾圓約束郵便同	137.84	367.84	(+)	230.00	
(分 讓 印 刷 物)	250.00	250.00			
(有 價 證 券)	14,819.50	12,839.50	(-)	1,980.00	
東京電燈社債額面壹千圓	1,000.00	1,000.00			
東洋拓殖債券同壹萬參千圓	12,870.00	10,890.00	(-)	1,980.00	
帝國五分利公債同壹千圓	949.50	949.50			
(信 託 預 金)	55,238.66	59,404.63	(+)	4,165.97	
三菱信託株式會社	30,707.88	33,932.88	(+)	3,225.00	
三井信託株式會社	24,530.78	25,471.75	(+)	940.97	
(銀 行 預 金)	10,881.24	12,105.35	(+)	1,224.11	
住友銀行東京支店定期預金	2,629.08	2,717.48	(+)	88.40	
三菱銀行特別當座預金	8,252.16	9,387.87	(+)	1,135.71	
(振替貯金(口座基金を含む))	27,730.23	25,161.82	(-)	2,568.41	
(現 金)	457.89	396.15	(-)	61.74	
(未 收 會 費)	1,519.70	1,837.10	(+)	317.40	
小 計	117,559.21	119,746.54	(+)	2,187.33	
別口見返資金別口財産目錄通)	584,435.85	592,575.83	(+)	8,139.98	
合 計	701,995.06	712,322.37	(+)	10,327.31	
負 債 之 部					
(未 收 會 費)	1,519.70	1,837.10	(+)	317.40	
合 計	1,519.70	1,837.10	(+)	317.40	
差 引 財 産 現 在 高	700,475.36	710,485.27	(+)	10,009.91	

別口財産目録

第(5)號

(昭和17年2月末日現在)

摘 要	昭和16年2月 末日現在	昭和17年2月 末日現在	差 引 增 (+) 減 (-)	備 考
(1) 鐵鋼資料編纂資金 三菱銀行當座預金	18,350.29 18,350.29	15,048.65 15,048.65	(-) 3,301.64 (-) 3,301.64	
(2) 事務員退職給與基金 三菱銀行特別當座預金	2,009.80 2,009.80	4,071.37 4,071.37	(+) 2,061.57 (+) 2,061.57	
(3) 會館建設基金 三菱信託會社信託金	0 0	5,138.06 5,138.06	(+) 5,138.06 (+) 5,138.06	
(4) 服部博士記念資金 帝國五分利公債額面二萬圓 三菱銀行特別當座預金	20,411.33 20,000.00 411.33	20,728.01 20,000.00 728.01	(+) 316.68 0 (+) 316.68	
(5) 香村博士寄贈資金 帝國五分利公債額面五千圓(甲) 帝國五分利公債額面壹萬五千圓(乙) 三菱銀行特別當座預金(甲) 三菱銀行特別當座預金(乙)	26,789.26 5,000.00 15,000.00 683.45 6,105.91	26,775.63 5,000.00 15,000.00 605.66 6,169.97	(-) 13.63 0 0 (-) 77.69 (+) 64.06	
(6) 依博士記念資金 東洋拓殖債券額面五千圓 三菱銀行特別當座預金	5,183.92 5,000.00 183.92	5,172.15 5,000.00 172.15	(-) 11.77 0 (-) 11.77	
(7) 河村博士寄贈資金 三菱信託會社信託金	6,203.99 6,203.99	6,479.87 6,479.87	(+) 275.88 (+) 275.88	
(8) 野田文庫資金 三菱信託會社信託金 三井 " " 住友 " " 三菱銀行定期預金 三井銀行丸之内第二支店 " 住友銀行東京支店 " 三菱銀行特別當座預金 三井銀行丸之内第二支店 " 住友銀行東京支店 " 振替貯金(口座基金を含む) 圖書 什器	131,919.95 35,000.00 35,000.00 30,000.00 4,489.01 4,489.01 4,489.01 1,914.31 980.19 2,169.57 600.39 9,566.96 3,221.50	135,486.53 35,000.00 35,000.00 30,000.00 4,638.35 4,638.35 4,638.35 3,260.42 2,333.53 1,801.75 614.79 10,339.49 3,221.50	(+) 3,566.58 0 0 0 (+) 149.34 (+) 149.34 (+) 149.34 (+) 1,346.11 (+) 1,353.34 (-) 367.82 (+) 14.40 (+) 772.53 0	
(9) 日本鋼管會社寄贈資金 三井信託會社信託金 三分半わ號公債額面金拾萬圓 政府保證興業債券 " 金拾萬圓 三菱銀行特別當座預金 三井 " " 住友 " "	319,921.31 100,000.00 98,050.00 100,020.00 7,033.82 4,123.00 10,691.49	318,858.29 100,000.00 98,050.00 100,020.00 10,934.64 8,016.89 1,836.76	(-) 1,063.02 0 0 0 (+) 3,900.82 (+) 3,893.89 (-) 8,857.73	
(10) 日本特殊鋼會社寄贈資金 住友信託會社信託金(甲) 同 (乙) 住友銀行東京支店特別當座預金(甲) 同 (乙)	53,646.00 20,000.00 30,000.00 840.56 2,805.44	54,817.27 20,000.00 30,000.00 1,278.46 3,538.81	(+) 1,171.27 0 0 (+) 437.90 (+) 733.37	
合 計	584,435.85	592,575.83	(+) 8,139.98	

昭和17年度經常收支豫算

收		入	支		出		
項	目	金	額	項	目	金	額
維持	會員會費	15,900.00		會誌	印刷費	33,400.00	
正	會員會費	22,500.00		版類	製作費	3,300.00	
准	會員會費	21,000.00		別刷	印刷費	4,000.00	
入	會金	800.00		原稿	料	3,000.00	
印刷	物分讓料	4,500.00		約東	郵便料	1,500.00	
廣	告料	13,500.00		俸給	及び手当	14,600.00	
公	社債利子	710.00		借	室料	3,420.00	
振	替貯金利子	450.00		會	合費	1,500.00	
銀	行預金利子	250.00		學	會及び協會費	300.00	
信	託預金利子	2,450.00		關	西支部費	1,080.00	
鐵	鋼試料分讓料	22,000.00		事	務費	8,000.00	
鐵	鋼資料編纂資金より繰入金	2,000.00		圖	書費	200.00	
雜	收	30.00		什	器費	150.00	
				講	演會費	2,000.00	
				大	會費	5,500.00	
				鐵	鋼試料買入代金	20,000.00	
				會	館建設基金	0	
				事	務員退職給與基金	1,000.00	
				豫	備費	3,140.00	
合	計	106,090.00		合	計	106,090.00	

昭和17年度別口資金收支豫算

口	別	收		支					
		項	目	金	額	項	目	金	額
(1)	(鐵鋼資料編纂資金)	前	年度より繰越金	15,048.65		鐵	鋼要覽原稿料	6,250.00	
		銀	行預金利子	300.00		印	刷製本費	12,000.00	
		鐵	鋼要覽賣却收入	20,000.00		雜	給(筆耕・圖工)	2,000.00	
		豫	備費	3,000.00		事	務費	2,098.65	
		計		35,349.65		豫	備費	3,000.00	
						普	通會計へ繰入金	2,000.00	
						會	館建設基金へ繰入	8,000.00	
						計		35,348.65	
(2)	(事務員退職給與基金)	前	年度より繰越金	4,071.37		次	年度へ繰越	5,096.37	
		本	年度普通會計より繰入	1,000.00					
		銀	行預金利子	25.00					
		計		5,096.37		計		5,096.37	
(3)	(服部博士記念資金)	前	年度より繰越金	728.01		賞	狀用紙及び揮毫料	600.00	
		基	本公債利子	1,000.00		賞	受賞者招待費	21.00	
		銀	行預金利子	4.50		印	刷費	30.00	
						信	託手数料	60.00	
						雜	次年度へ繰越	10.00	
		計		1,732.51		計		961.51	
						計		1,732.51	

口 別	收 入		支 出	
	項 目	金 額	項 目	金 額
(4) (香村博士寄贈資金)	前年度より繰越金	6,775.63	賞状用紙及び揮毫料	200.00
	基本公債利子	1,000.00	受賞者招待費	7.00
	銀行預金利子	120.00	印刷費	10.00
			雑次年度～繰越	20.00
	計	7,895.63		15.00
			計	7,643.63
				7,895.63
(5) (俵博士記念資金)	前年度より繰越金	172.15	賞状用紙及び揮毫料	200.00
	基本公債利子	215.00	受賞者招待費	7.00
	銀行預金利子	1.70	印刷費	10.00
			雑次年度～繰越	15.00
	計	388.85		156.85
			計	388.85
(6) (河村博士寄贈資金)	前年度より繰越金	1,479.87	次年度～繰越	1,823.87
	信託預金収益	344.00		
	計	1,823.87	計	1,823.87
(7) (野田文庫資金)	前年度より繰越金	21,925.54	圖書室設備費	1,700.00
	基本信託金収益	3,800.00	圖書購入費	2,000.00
	銀行利子	600.00	圖書目錄印刷費	600.00
	振替貯金利子	15.00	雑次年度～繰越	300.00
	計	26,340.54		21,740.54
			計	26,340.54
(8) (日本鋼管會社寄贈資金)	前年度より繰越金	20,788.29	研究部會費	4,500.00
	基本信託金収益	3,800.00	展覽覽會費	3,000.00
	公債利子	3,500.00	俸給手当費	3,000.00
	公債利子	4,200.00	印刷費	2,500.00
	銀行利子	400.00	通信費	5.00
	計	32,688.29	雑次年度～繰越	100.00
			計	19,088.29
				32,988.29
(9) (日本特殊鋼會社寄贈資金)	前年度より繰越金	4,817.27	賞牌製作費	18.00
	基本信託金収益	1,900.00	賞牌副賞金	400.00
	銀行利子	85.00	印刷費	300.00
			賞状用紙及び揮毫料	50.00
	計	6,802.27	受賞者招待費	17.50
			雑次年度～繰越	25.00
			計	45.00
				5,946.77
			計	6,802.27
(10) (會館建設資金)	前年度より繰越金	5,183.06	次年度～繰越	13,678.06
	信託收益金	495.00		
	鐵鋼試料編纂資金繰入	8,000.00	計	13,678.06
	計	13,678.06		

3. 監事報告 松下長久君起立 水谷君御不在に付き私より報告致します。收支決算等に就き監査致しましたところ、誠に妥當なるものと思ひます。財産もよく報告されよく保管されて居るものと存じます。

議長 只今の監事の御報告の通りで御座います。如何でございますか。御承認を得たものと心得て宜しうございますか。(拍手) 夫では御承認を得たことに承知致します。洵に有難うございました。

4. 理事及び評議員改選投票結果

○議長 是で表彰式を終りまして、次に投票の結果を御報告申し上げます。(表彰式後議長は選挙開票立會者金子恭輔君を招く。)

○金子恭輔君 川上博士と共に立會の御指命を受けました。開票の結果は大體協會の方から御推薦を致されました通り大多數の賛成を得ました。

- (1) 出席數 總會出席者 182 名、委任出席者 707 名、投票送達者 1,424 名、以上計 2,313 名/正會員數 2,498 名
- (2) 投票數 投票送達者 1,424 票 委任投票 707 票 當日投票 2 票 以上計 2,133 票

(3) 開票成績 原案賛成 2,126 票、改選者一部指名を異にしたるもの 7 票。依て原案可決(改選役員次の通り)と云ふことになりませんが、之等の方々を次回の役員と御認め下さつてもよいと存じますが如何ですか。(異議なしの聲あり) 之で報告を終ります。

○議長 只今御報告の通り投票の結果、全部御當選になりました。どうも恐れ入りますが、評議員の方々は時局柄御多忙の所、御迷惑に存じますが、會の爲御盡力の程お願い致し度いと思ひます。

(備考) 昭和 17 年 4 月 4 日役員改選及び之に伴ひ監事、常務委員、編輯委員其の他の委員に新に就任せられたる方々を同時に茲に掲記す。

- 理事(會長) 松下 長久君 (副會長) 三島 徳七君
 綱谷 俊平君 池田 正二君 石原 善雄君
 志村 繁隆君 藤村 哲之君
 監事 吉川 晴十君
 常務委員 石田 四郎君 鹽澤 正一君 志村清次郎君
 田中 清治君 依 信次君
 編輯委員 一色 貞文 石田 四郎 石川 薫 鹽澤 正一
 岡部 長衛 大原 久之 菊池 浩介 田中 清治
 志村清次郎 依 信次 橋本 正一 前田 六郎
 山田良之助 山口 眞甲 齋藤 彌平 横山 均次

- 今回改選評議員
 淺田 長平 足立 泰雄 荒木 宏 石田 四郎 石原廣一郎
 鹽澤 正一 石原米太郎 井上禧之助 井上 克巳 前川 清
 梅根常三郎 大村 正篤 畠山 茂六 小倉 正恒 門野重九郎
 川上 義弘 川崎舍恒三 北村保太郎 久保田省三 久保田權四郎
 工藤 治人 黒田 泰造 栗本勇之助 小日山直登 伍堂 卓雄
 齋藤 三三 寒川 恒貞 鹽澤 正雄 斯波孝四郎 田宮嘉右衛門
 高橋 正雄 向笠 金吾 中井 勵作 中田 義算 中村 道方
 中山 悦治 井村 竹市 西山彌太郎 田尻 生五 長谷川熊彦
 日高 鏡一 尾藤加勢士 松田 義一 松本與三郎 牧田 環
 田中 清治 村上武次郎 山崎 章 横田 文吉 吉岡 保貞
 (參照) 留任評議員氏名(16 年 4 月着任 18 年 4 月滿期)

- 枕本 金平 鮎川 義介 石川登喜治 井上 順三 井上長太夫
 井上匡四郎 伊集院清彦 伊能 泰治 鷗瀨 新五 宇留野四平
 海野 三朗 大河内正敏 大谷米太郎 岡崎 泰祐 景山 齊
 金子 恭輔 梶 弁三 木村 弘人 澤村 宏 齋藤 彌平
 佐々川 清 島 安次郎 白石元治郎 島岡亮太郎 山田良之助
 城 正俊 末兼 要 杉 政人 角野 尙徳 高瀬 孝次
 田所 芳秋 堤 正義 戸村 理順 中原 津 西村小次郎
 二階堂行健 廣瀬 政次 藤田 俊三 藤井 寛 藤原 唯義
 本多光太郎 的場 幸雄 松本健次郎 松原武三郎 水谷 浩
 室井嘉治馬 山根 新次 山岡 武 吉田 豊彦 渡邊 義介
 服部博士記念資金委員會委員(○印幹事)

- 委員長 松下 長久
 委員 ○藤村 哲之 ○池田 正二 ○石原 善雄
 ○志村 繁隆 吉川 晴十 ○綱谷 俊平 井上 克巳
 長谷川熊彦 本多光太郎 河村 驥 川上 義弘
 景山 齊 依 國一 村上武次郎 梅根常三郎
 黒田 泰造 渡邊 三郎 藤井 寛 荒木 宏
 澤村 宏 齋藤 大吉 ○三島 徳七 水谷 叔彦
 島岡亮太郎

- 野田文庫委員會委員(○印幹事)
 委員長 松下 長久
 委員 ○河村 驥 ○綱谷 俊平 ○吉川 晴十
 ○三島 徳七 井上 克巳 井村 竹市 五百旗頭啓
 池田 正二 藤村 哲之 石原 善雄 長谷川熊彦
 濱住松二郎 金子 恭輔 志村 繁隆 依 國一
 長尾 武雄 渡邊 三郎 藤井 寛 足立 泰雄
 齋藤 大吉 澤村 宏 水谷 叔彦 鹽澤 正一
 廣瀬 政次

- 日本鋼管會社寄贈資金委員會委員(○印幹事)
 委員長 松下 長久
 委員 ○藤村 哲之 ○河村 驥 ○志村 繁隆
 ○池田 正二 ○渡邊 三郎 ○齋藤 大吉 ○吉川 晴十
 ○三島 徳七 ○石原 善雄 井上 克巳 石川登喜治
 綱谷 俊平 長谷川熊彦 二階堂行健 依 國一
 川上 義弘 村上武次郎 鷗瀨 新五 久保田省三
 藤井 寛 足立 泰雄 荒木 宏 齋藤 三三
 澤村 宏 白石元治郎 水谷 叔彦 尾藤加勢士

IV. 表 彰 式

引續き服部賞香村賞褒賞及び渡邊賞の賞牌並に賞金を名譽ある方々に差上げます式に移ります。此の日名譽の表彰を受けられたる方々次の如し。

服部賞金贈呈式

- 服部賞金受領者 北海道帝國大學教授理學博士 柴田 善一君
 三菱鑛業株式會社參事工學士 廣瀬 政次君
 株式會社昭和製鋼所研究所工學士 垣内富士雄君
 日本製鐵株式會社八幡製鐵所 吉田清三郎君
 日本鋼管株式會社參事工學士 桑田 賢二君
 大阪陸軍造兵廠 吉田松次郎君

香村賞金(第九條ニ據ル)贈呈式

- 香村賞金受領者 東京帝國大學教授工學博士工學士 宗宮 尙行君

株式會社昭和製鋼所研究所工學士 後藤 有一君

俵賞金贈呈式

受領者

技術上優秀論文(高速度工具に関する研究)

吳海軍工廠製鋼實驗部海軍技師工學士 堀田 秀次君

學術上優秀論文(熔鋼の輻射率に関する研究)

住友金屬工業株式會社製鋼所技師理學士 菅野 猛君

渡邊賞牌並に渡邊賞金贈呈式

渡邊賞牌受領者

株式會社神戸製鋼所取締役研究部長兼特殊鋼部長

渡邊賞金受領者

陸軍中將工學博士工學士 川上 義弘君

早稻田大學助教授工學士 前田 六郎君

大阪陸軍造兵廠陸軍技師 中務信次郎君

東北帝國大學教授金屬材料研究所員

工學博士工學士 森岡 進君

日本特殊鋼株式會社技師理學士 森脇 和男君

議長 夫れては之を以て總會を閉會いたします。私が2年の任期を大過なく終ることを得ましたのは全く吉川副會長始め役員、前會長先輩各位の御指導に依るの外、全く會員各位の御援助の賜と存じます。厚く厚く御禮を申しますと共に新役員並に會員各位の御健康を祈ります。(拍手)

表彰者推薦理由書

服部賞金受領者

北海道帝國大學教授理學博士理學士 柴田善一君

君は日本學術振興會第19小委員會委員として専ら特殊鋼熔製に関する物理化學的研究に従事し、爾來7箇年間専ら實驗を重ね、鋼中炭素の酸化平衡より進んで珪素が鋼と鋼滓とに往來する機構を研究して製鋼技術の進歩を促したり。

一方同君は日本鐵鋼協會に於て特に物理化學の應用に關し講演を爲し、又「鐵と鋼」に其の研究を發表する等に依りて物理化學の製鋼技術への應用に關し鐵鋼界を指導し、製鋼技術の進歩發達に貢獻せる所頗る大なり。仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第八條に據り服部賞金を受くる資格充分なるものと認む。

服部賞金受領者

三菱製鐵株式會社參事工學士 廣瀬 政次君

君は大正7年東京帝國大學工學部鐵冶金學科を卒業し、三菱製鐵株式會社、東京鋼材株式會社の製鋼部を経て三菱製鐵株式會社製鐵部に入りクルップ式直接製鐵法を研究し、同社清津製鐵所の建設せらるゝや同所に於て該法の實施に従事し、熱心努力の結果終に同法により優良なる粒鐵を生産し、時局下本邦製鋼原鐵の供給に多大の貢獻をなし、其の功績頗る大なり。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に據り服部賞金を受くる資格充分なるものと認む。

服部賞金受領者

株式會社昭和製鋼所研究部工學士 垣内富士雄君

君は昭和2年東京帝國大學工學部冶金學科卒業後、直ちに同大學砂鐵研究室に入り、砂鐵の物理的性質並に製鍊に關する研究に従事し、次で昭和製鋼所に入社、同社より粒鐵製法調査の爲獨逸に出張を命ぜられ、歸朝後之が基礎的研究及び工業的試驗を行ひ、同君獨創の粒鐵製法に成功せり。

君は大學卒業後10有餘年我國製鐵資源の研究に没頭し、今や世

界に比類なき純度の粒鐵の出現を見たるは實に君の絶えざる努力の賜にして製鐵界に貢獻するどころ極めて大なり、仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に據り服部賞金を受くる資格充分なりと認む。

服部賞金受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師 吉田清三郎君

君は大正10年3月大阪高等工業學校採鐵冶金科を卒業し、同年7月製鐵所庶務部調査課に奉職して鐵鋼資源の調査に従事し、次で研究所に轉じ20箇年製鋼、鋼材に關する研究に勤務せり。

而して其の間物理冶金學、合金學、金屬組織學の應用に關する事項並に鐵鋼の腐蝕に關する事項の研究を擔當し、ブリキの研究に關しては大正12年製鐵所に於てブリキ製造を創めてより以來常に一貫して之が研究に従事し、ブリキ製造原料鋼板の材質、壓延、燒鈍、酸洗、鍍金作業及び試驗法等を研究し、原板の材質は鱗ベースのリムド型鋼塊材に変更すべきことを提案し之に伴ふ作業方式の更新を行ひ、これによりて本邦に於けるブリキの製造は其の歴史新しきにも拘らず10數年にして英、獨、伊、佛の製品を凌駕し將來米國製の一流品をも驅逐せんとするに至れり。之實に日本製鐵株式會社八幡製鐵所に於ける關係者の熱心なる努力に俟つべきも亦同君独自の研究努力に負ふ所大なりと謂ふべく其の功績は甚だ大なるものあり。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に據り服部賞金を受くる資格充分なりと認む。

服部賞金受領者

日本鋼管株式會社參事工學士 桑田 賢二君

君は大正9年7月東京帝國大學鐵冶金學科を卒業、昭和10年6月日本鋼管株式會社に入社、爾來同社川崎製鐵所に在りて専ら製鋼の研究並に作業に従事、昭和12年同所に於て本邦最初の「トーマス」式轉爐製鋼の實施せらるゝや之が作業指導に盡瘁し、技術上幾多難關を克服し、短期間にして之を成功せしめ、以て現下屑鐵不足に對處し、吾國製鋼作業に一新紀元を劃したるは其の功績甚大なり。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に據り服部賞金を受くる資格充分なりと認む。

服部賞金受領者

大阪陸軍造兵廠 吉田松次郎君

君は明治25年7月大阪砲兵工廠に入職し爾來三十有五年終始一貫製鋼作業に従事し、此の間日清、日露、世界大戰の各戰役に功勞あり、明治44年作業從事中不幸にして左眼に負傷し失明の厄に會ひしも更に屈することなく愈々旺盛なる研究心と不斷の努力とに依り屢々有益なる考案をなし受賞の榮を受く。

大正15年11月定限年齢にて一旦職を退きありしも偶々滿洲事變勃發し東亞の風雲急を告ぐるや昭和8年再び召されて雇員を拜命し老軀を提げて靑少に伍し激務に従事して今日に及び。前後正に44年、職務に勉勵すること一日の如く一生を製鋼作業に捧ぐるを以て己の天職となす。其の業績は平爐製鋼、坩堝製鋼、電氣製鋼の總てに互り而も圓滿濃厚なる人格は克く後進を指導して感化心服し慈父の如く敬慕せしむ。其の熱烈なる研鑽努力は深き經驗と相俟つて皇軍の製鋼作業に貢獻せし所蓋し著大なるものと謂ふべし。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第8條に據り服部賞金を受くる資格充分なるものと認む。

香村賞金(第9條適用)受領者

東京帝國大學教授工學博士工學士 宗宮 尚行君

君は大正9年東京帝國大學應用化學科を卒業後、同大學に勤務して工業分析を擔當して今日に至る。過去8箇年間に互り日本學術振興會第19小委員會委員として鋼中のガス分析方法を研究し、多數の有益なる結果を得たるのみならず、非鐵金屬中のガス分析法に就ても研鑽深く、方今金屬中のガス分析に關しては國內第一の權威者と云ふべし。又窒素分析装置の專賣特許を受け、その装置は既に廣く實用せられつゝあり、之等に關する研究論文は屢「鐵と鋼」にも發表し製鐵技術の進歩發達に貢獻せる所頗る多大なり。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條に據り香村賞金を受くる資格充分なるものと認む。

香村賞金(第9條適用)受領者

株式会社昭和製鋼所研究所工學士 後藤 有一君
君は昭和5年3月旅順工科大学鐵冶金學科卒業後、同大學助手として勤務し、昭和9年12月昭和製鋼所に入社し研究所勤務となり、製鐵選鑛に關し、調査研究をなし、遂に鐵鑛の浮游選鑛法を發明し特許出願せるもの3件に及び、作業に貢獻する所頗る大なり。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9條に據り香村賞金を受くる資格充分なるものと認む。

依賞金受領者審定書

依賞金受領者 技術上有益なる論文

高速度工具に關する研究(鐵と鋼第27年第6號)

吳海軍工廠製鋼實驗部海軍技師工學士 堀田 秀次君

依賞金受領者 學術上有益なる論文

熔鋼の輻射率に關する研究(鐵と鋼第27年第2號)

住友金屬工業株式會社製鋼所技師理學士 菅野 猛君

渡邊賞牌受領者

株式會社神戸製鋼所 取締役研究部長兼特殊鋼部長

陸軍中將工學博士 川上 義弘君

君は陸軍員外學生として東京帝國大學鐵冶金學科に入学、大正2年同科を卒業し陸軍の技術關係の樞要なる方面に勤務し陸軍科學研究所部長、名古屋工廠長等を経て後神戸製鋼所に入り特殊鋼部長及び研究部長として多年の研究による蓄著を傾けて同所の特殊鋼の製造並に技術の進歩發達に盡しつゝあり。

同君は夙に多數の研究論文を「鐵と鋼」に發表したるが就中昭和3年發表の「耐鑄鋼に關する研究」は特筆すべきものにして本研究により同君は工學博士の學位を授與せられたり。

尙同君は多年日本學術振興會の委員として學術研究に貢獻しつゝあるのみならず商工省の委嘱により、特殊鋼製造指導委員として本邦特殊鋼の製造技術進歩向上に貢獻せる所極めて顯著なり。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第4條に據り渡邊賞牌を受くる資格充分なるものと認む。

渡邊賞金受領者

早稻田大學助教工學士 前田 六郎君

君は昭和2年早稻田大學理工學部探鑛冶金學科卒業後直に東京帝國大學砂鐵研究室に入り砂鐵の化學的性質並に製煉に關する研究に従事す。昭和12年母校助教に囑任され教鞭を執る傍、日本學術振興會第10特別委員會及び第19小委員會に於て特殊鋼の熔解、鋼中非金屬介在物、ガス分析、鋼の粒度等に關する事項を調査して我國特殊鋼の發達に貢獻する所極めて大なり。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に據り渡邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

渡邊賞金受領者

大阪陸軍造兵廠 陸軍技師 中務信次郎君

君は明治31年大阪砲兵工廠に奉職し爾來40餘年に互り専ら金屬分析試驗業務に従事して今日に至る。其の間業務に關し有益なる發明及び考案を爲したる爲上司より表彰を受けしこと數回に及べり。蓋し分析技術に關する造詣深く且研究心旺盛にして刻苦勉勵不斷の努力を致せし賜に外ならず。特に造兵廠の實施する特殊鋼の製造及び研究に於ては其の分析試驗を擔當して初期より今日に至る迄永年之に參與し常に積極且熱心に其の任務を遂行し技術の改良進歩に貢獻し特殊鋼製造上裨益する所極めて大なり。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に依り渡邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

渡邊賞金受領者

東北帝國大學助教 金屬材料研究所員

工學博士 工學士 森岡 進君

君は昭和5年東北帝國大學工學部金屬工學科を卒業し直に金屬材料研究所に入所、爾來12年鐵鋼其他金屬合金の腐蝕に關する研究に従事し多數の有益なる研究結果を發表せるが其中重要なものは高クロム鋼及び銅鋼の腐蝕現象に關するものなり。

高クロム鋼の腐蝕現象に就ては多くの複雑難解なる現象もありしが同君は多年苦心の結果よく之を解決せり。高クロム鋼は硝酸に對して極めて耐酸性大なるが硫酸、鹽酸等の非酸化性酸に對しては炭素鋼よりも一層容易に侵蝕せらる。然るに之に或種の鹽類を添加するときは遂に全く侵されざるに至る。此の現象を研究したる結果非酸化性溶液中に於けるクロム鋼の不動態は鋼の表面に於て高原子價金屬イオンが低原子價イオンに還元せられて非酸化性酸に酸化能を與へるによることを明かにし之に依つて各種の腐蝕現象を説明し非酸化性溶液中に於て鐵鋼の不動態出現に必要な因子を決定せり。

又14%及び21%クロム鋼の鹽化第二鐵水溶液に依る腐蝕現象を研究し14%クロム鋼は表面が全面的に侵蝕せらるゝが21%クロム鋼は表面は不動態化し屢々内部に洞狀の侵蝕を起すことを知り其の機構に就て考察し洞侵蝕發生の原因を明かにし高クロム鋼を實地に使用する場合に於ける注意を與へたり。

又銅鋼は耐蝕性大なるものなるが少量の銅含量が耐蝕性を増加するは鐵、銅固溶體が大なる水素過電壓を有するにより又銅鋼の組成及び酸の濃度により腐蝕量の異なるは銅の析出及び腐蝕經過中に起る其の析出狀態の變化によることを明かにせり。

此の如く同君は高クロム鋼及び銅鋼に就て複雑なる腐蝕現象を明快に解決し特殊鋼の發達に貢獻せる所甚大なり。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に據り渡邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

渡邊賞金受領者

日本特殊鋼株式會社技師 理學士 森脇 和男君

君は昭和12年東北帝國大學理學部化學科卒業後直に日本特殊鋼株式會社に入り研究所に勤務し鋼中非金屬介在物定量分析法に關し鹽素法を適用し炭素鋼に於ては信頼すべき結果を得るに至りたり。更に同君は特殊鋼に於て無水鹽化クロムを他の酸化物より分離溶解する點を特に研究し濃厚なる二價クロムイオン溶液「日特液(目下專賣特許出願中)」を以て處理することに成功しタングステンを含まざる總ての特殊鋼の非金屬介在物の定量分析の可能なることを明かにせり。

之により特殊鋼と非金屬介在物との種々の關係を明かにし得べく特殊鋼の研究に對し一つの基礎を樹立する事を得たるものにして特

殊鋼製造技術上貢獻する所尠からず。

邊賞金を受くる資格充分なるものと認む。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條に據り渡

日本鐵鋼協會春季大會晚餐會記事

日時 昭和17年4月4日(土)午後6時15分より

會場 東京市麴町區一ツ橋 帝國學士會館

會費 金5圓

1. 出席者 (順位略)

招待者

○日本金屬學會會長 本多光太郎君

○見學工場主

久芳 道雄君(日産自動車) 足立 逸次君(富士製鋼)
阿部 美雄君(工業電氣計器) 天野 清君(中央度量衡)
武原 清七君(足立製鋼) 油田 尙郎君(日本鑄鋼)
嘉納 君(島津製作)

○表彰者

川上 義弘君 柴田 善一君 廣瀬 政次君 垣内富士雄君
吉田清三郎君 桑田 賢二君 吉田松次郎君 後藤 有一君
堀田 秀次君 菅野 猛君 中務信次郎君 森岡 進君
森脇 和男君

○講演者

芥川 武君 塚本 成之君 上野建二郎君 矢島 忠和君
淺田 千秋君 池島 俊雄君 山中 直通君 萩原 巖君
梅澤光三郎君 深田 健三君 大西 正次君 森川 泰汎君
竹本 專一君 川口寅之助君 田川淺次郎君 美馬源次郎君
關口 次郎君 上田 滿正君 河合 正吉君 虎岩 頼夫君
永田 三郎君 望月 修次君 眞殿 統君 河内 通君
小菅 高君 末松 一君 高山 松平君 勝屋 彊君
山本 利道君 藤田新三郎君 河合 幸三君 淺田 八良君
山本 純三君 舟久保利作君 室井嘉治馬君 松浦 二郎君
岡田 實君 出口喜勇爾君 柳沼 隆君 前田 元三君
川勝 一郎君 下井 勇君

○實行委員

網谷 俊平君 池田 正二君 石原 善雄君 菊池 浩介君
齋藤 彌平君 志村清次郎君 橋本 正一君 三島 徳七君
山口 眞申君 横山 均次君

出席會員 (○印は役員)

渡邊 三郎君 石田 四郎君 山田良之助君 依 國一君
水谷 叔彦君 松下 長久君 藤原 唯義君 吉川 晴十君
的場 幸雄君 杉 政人君 藤村 哲之君 河村 驍君
齋藤 大吉君 金子 恭輔君 石原米太郎君 尾藤加勢士君
桂 弁三君 朝倉 希一君 池田 熊雄君 阿刀田甲子光君
稻津 健介君 石田 求君 井手 又藏君 石川 等君
飯笹小四郎君 牛山 五介君 植田 勇二君 海野 幸保君
江原 浩介君 小畑菊次郎君 大澤 隆三君 大崎 新吉君
小澤 保藏君 大塚 爲吉君 河合 成治君 川村 重信君
門川 勳君 小高 義通君 近藤 正光君 小松英次郎君
笹部 誠君 杉本 三郎君 杉本 正邦君 杉山 金作君
數納松次郎君 高野 軍治君 田代 保夫君 田廣熊治郎君
橋 新君 瀧川 康雄君 武 政忠君 高口 清君
高橋哲四郎君 辻畑 敬治君 中村 幸雄君
日本電解製鐵所君 錦織 清治君 西尾銈次郎君

野村 靜君 野田 正一君 林田 恒雄君 濱 弘君
原 茂樹君 花岡 元吉君 長谷川幸平君 橋口 信夫君
平野 英夫君 福留 富治君 布施 武雄君 不破小一郎君
藤田 清一君 福島 勉君 細川 清二君 松浦 春吉君
見浦 清夫君 三谷 鉞吉君 山下 弘作君 篠内周三郎君
山中不二夫君

2. 卓上演説記録

渡邊三郎君(日本鐵鋼協會會長)

一言御挨拶を申し上げます。此度第27回當協會講演大會及び總會を開くに就きまして當協會と御親類筋の學會の會長さん並に明後6日よりの工場見學を御許し下されました官廳の所長殿及び各會社の重役各位、尙今回名譽の受賞をされた諸君又講演會に於て平素の研究を御發表下さつた方々を御招待し茲に會員諸君と共に懇親會を催しました所來賓各位には時節柄極めて御多用の處御繰合せ御出席下され又會員諸君に於きましても、御熱心に終日講演をお聴取でお疲れであるにも拘らず多數御出席を得まして當會懇親會としては未だ例を見ざる盛會でありますことは誠に御同慶の事と喜びに堪へざる所であります。

扱て今回の大會出席者は、1,330人の多數でありまして皆様の御盡力で當會大會出席會員も年と共に増加し前回迄は、1,000人を以てレコードと致しましたが、今回は更にこれを突破すること300人を過ぐると言ふ事で、これ即ち當日本鐵鋼協會の使命が時局柄益々重要であると言ふ事を證明するものであると信じます。先刻總會の御挨拶に於て申上げました通り我國としては北に於て世界有數の燃料資源たる石炭を持ち、南に於て今回大東亞戰爭の結果數百億噸の鐵鑛石を獲得致す事が出来ましたのでこれからは我々鐵鋼業に従事致して居る者の職域は實に洋々たるものがありますので、従つて我々一同は非常の努力を致し又多大なる苦心を覺悟せねばなりません。日本の石炭にしても鐵鋼にしても英米の如く、そのお膝元に於て手近かに得られると言ふことは誠に少く海を渡り又鐵道に依るとしても長い距離を運搬せねばならぬのであります。故に我々としては諸先輩の殘され又は教へられつゝある技術に依ると同時に進んで新たなる研究を行ひ以て本邦製鐵事業の大成を完行し、大東亞共榮圈確立に最も重要な國防と産業の兩全を期さなければなりません。この資源を持ち明治以來築き上げた技術に依つて之が出来なければ孟子の所謂「能はざるに非ず爲さざるなり」と言ふ誹を受くるも致し方がないと思ひますので鐵鋼事業に關係してゐる當協會會員各位の一般の努力と奮闘によりその悔を残さない事に致したいもので一層諸君の御健闘を祈つて止まない次第であります。

次に手前も會長として大過なく2ヶ年の任期を無事相濟ませました事は一に前會長始め先輩各位並に役員諸氏の御指導の賜であると同時に會員諸君の多大なる御援助に依りました事で茲に厚く御禮を申し上げます。先刻大會の選挙によりまして新たに理事がお定まりになり、その互選の結果會長に日本鋼管會社重役松下長久氏がなられ、又東京帝國大學の三島博士が副會長になられまして幸に當會も永い間の皆様の御盡力で基礎が益々堅實になり加ふる